

令和5年度沖縄県海岸漂着物発生抑制対策検討・実施業務

報 告 書

令和6年3月

沖縄県 環境部 環境整備課

目 次

1. 業務の目的及び基本方針	1-1
1.1 目的	1-1
1.2 業務の実施方針	1-1
1.2.1 業務の実施における配慮事項	1-1
1.2.2 沖縄県・地方公共団体等との連携	1-1
1.2.3 品質管理	1-1
1.2.4 新型コロナウイルス感染症対策	1-2
1.2.5 情報セキュリティの確保	1-2
1.2.6 新型コロナウイルス感染症対策	1-2
1.2.7 その他	1-2
1.3 業務内容	1-2
1.4 業務実施場所	1-2
1.5 業務実施期間	1-2
1.6 業務実施工程及び実施体制	1-3
2 ワーキンググループの設置と発生抑制対策の検討	2-1
2.1 目的	2-1
2.2 ワーキンググループの構成	2-1
2.3 開催スケジュール	2-2
2.4 実施結果	2-3
2.4.1 令和5年度第1回海岸漂着物の発生抑制対策ワーキンググループ	2-3
2.4.2 令和5年度第2回海岸漂着物の発生抑制対策ワーキンググループ	2-11
3 令和5年度の発生抑制対策の検討	3-1
3.1 目的	3-1
3.2 本業務における発生抑制対策の取組項目	3-1
4 地域交流ワークショップの開催結果	4-1
4.1 目的	4-1
4.2 対象地域と開催日時	4-2
4.3 実施方法	4-2
4.3.1 実施体制	4-2
4.3.2 参加者の募集	4-2
4.3.3 参加者	4-7
4.3.4 実施内容	4-8
4.4 実施結果（本島北部地域交流ワークショップ）	4-11
4.4.1 アイスブレイク	4-11
4.4.2 自己紹介ワークショップ	4-11
4.4.3 沖縄県の取組紹介	4-12
4.4.4 ワークショップ えんたくんで海ごみゆんたく！	4-17
4.4.5 全体会（全体討議）	4-20
4.4.6 参加者アンケート	4-21
4.5 実施結果（宮古島地域交流ワークショップ）	4-25

4.5.1	アイスブレイク	4-25
4.5.2	自己紹介ワークショップ	4-25
4.5.3	沖縄県の取組紹介	4-26
4.5.4	ワークショップ えんたくんで海ごみゆんたく！	4-31
4.5.5	全体会（全体討議）	4-34
4.5.6	参加者アンケート	4-35
4.6	今後の方針・取組案	4-39
5	一般県民向けオンラインワークショップの開催	5-1
5.1	目的	5-1
5.1	開催日時	5-1
5.2	実施方法	5-1
5.2.1	参加者の募集	5-1
5.2.2	実施体制	5-3
5.2.3	実施内容	5-4
5.3	実施結果	5-7
5.3.1	取組紹介	5-8
5.3.2	グループセッション	5-14
5.3.3	全体での意見交換	5-18
5.3.4	参加者アンケート	5-19
5.4	今後の方針・取組案	5-23
6	令和6年度の発生抑制対策の検討	6-1
6.1	概要	6-1
6.2	発生抑制対策の取組内容（案）	6-1

■ はじめに ■

本報告書は、国の令和4年度補正予算及び令和3年度予算に基づく補助金事業である海岸漂着物等地域対策推進事業による令和4年度沖縄県海岸漂着物発生抑制対策検討・実施業務の実施結果等を取りまとめたものである。

1. 業務の目的及び基本方針

1.1 目的

県では、「美しく豊かな自然を保護するための海岸における良好な景観及び環境の保全に係る海岸漂着物等の処理等の推進に関する法律」（平成21年7月15日法律第82号）（以下、「海岸漂着物処理推進法」という。）第14条に定める「沖縄県海岸漂着物対策地域計画」（以下「沖縄県地域計画」という。）を策定するとともに、行政機関や地域関係者等を委員とする「沖縄県海岸漂着物対策推進協議会」、「沖縄県海岸漂着物対策推進地域協議会」（以下「協議会」という。）を設置し、関係者間の情報共有、連携等を図りながら、海岸漂着物の回収処理、実態調査、発生抑制対策等を実施してきた。

一方、県内海岸には、毎年、海岸漂着物が際限なく漂着する現況にあり、海岸における良好な景観及び環境の保全を図るため、今後も継続して海岸漂着物対策を実施していく必要がある。

本業務では、これまでに実施した海岸漂着物対策事業の結果と現時点での課題を踏まえ、令和4年度に設置した「海岸漂着物の発生抑制対策ワーキンググループ」（以下「ワーキンググループ」あるいは「WG」という。）を令和5年度も設置し、海岸漂着物の発生抑制対策を検討・実施するものである。

1.2 業務の実施方針

本業務の検討・実施に当たっては、海岸漂着物処理推進法、及び日本エヌ・ユー・エス（株）・（株）沖縄環境保全研究所共同企業体（以下、「当企業体」という。）が平成21～令和4年度に受託した海岸漂着物等の対策事業成果を踏まえた上で、沖縄県地域計画に基づき実施する。実施に当たっては、業務の円滑な実施を図るため、特に下記の項目に配慮することとした。

1.2.1 業務の実施における配慮事項

本業務では、各地域の実情に応じた調査及び検討を行うため、各地域における行政機関の担当者等との緊密な連携のもと実施した。

業務の実施に当たっては、沖縄県環境部環境整備課（以下、「沖縄県担当課」という。）と打合せのもと細目等を決定した。

1.2.2 沖縄県・地方公共団体等との連携

沖縄県・地方公共団体等との連携については、本調査の契約期間中、適切な頻度で調査計画及び進捗状況について情報共有を図るものとした。また、沖縄県・地方公共団体等への周知及び連絡については沖縄県担当課の指示に従うとともに、沖縄県・地方公共団体等から協議の要請があった場合には速やかに対応した。

1.2.3 品質管理

本業務の遂行及び報告書の作成に当たっては、日本エヌ・ユー・エス（株）「品質管理要領」に従い、文書管理、作業管理及び記録管理を行った。

1.2.4 新型コロナウイルス感染症対策

県の対処方針を遵守し、感染症対策の徹底及び安全担当者の配置を行い、業務の円滑な遂行に努めるものとした。

1.2.5 情報セキュリティの確保

本業務の実施に関して、沖縄県等から要機密情報を提供された場合には、適切に取り扱うための措置を講ずることとする。また、業務上作成する情報については、沖縄県担当課の指示に応じて適切に取り扱うこととした。

また、日本エヌ・ユー・エス(株)が登録している日本工業規格 (JIS) Q27000 シリーズの情報セキュリティマネジメントシステム、更には「ISMS マニュアル (情報セキュリティ管理規程)」に則って情報セキュリティ対策を確実に実施する。

1.2.6 新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症対策については、県の対処方針に遵守し、感染症対策の徹底及び安全担当者の配置を行い、業務の円滑な遂行に努めるものとした。

1.2.7 その他

本業務において、著作権等の扱いについては委託業務仕様書「7 著作権等の扱い」に、また、海岸漂着物の回収処理を実施する場合には委託業務仕様書「10 事業実施に係るその他事項(1)～(4)」に従うものとした。

1.3 業務内容

本業務の構成は、以下の5項目である。

- ①ワーキンググループの設置・運営
- ②令和5年度の発生抑制対策の検討
- ③地域交流ワークショップの開催
- ④一般県民向けオンラインワークショップの開催
- ⑤令和6年度以降の発生抑制対策の検討

1.4 業務実施場所

現地調査以外の業務は、主に以下に示すとおり当企業体の事業所で実施した。

- ・日本エヌ・ユー・エス株式会社
新宿本社 (〒160-0023 東京都新宿区西新宿 7-5-25 西新宿プライムスクエア 5階)
沖縄事業所 (〒902-0068 沖縄県那覇市真嘉比 1-10-8 330NIN ビル 302号)
- ・株式会社沖縄環境保全研究所
本社 (〒904-2234 沖縄県うるま市字州崎 7-11)

1.5 業務実施期間

契約締結の日から令和6年3月29日まで。

1.6 業務実施工程及び実施体制

本業務の実施工程（案）を表 1.6-1 に、実施体制（案）を図 1.6-1 に示す。

表 1.6-1 本業務の実施工程（案）

実施項目	令和4年			令和5年									備考	
	12月			1月			2月			3月				
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬		
業務実施準備・関係者連絡調整等	■	■												
(1) ワーキンググループの設置・運営			■									■		
(2) 令和5年度の発生抑制対策の検討			■	■										第1回ワーキンググループで内容確定
(3) 発生抑制対策の実施-1 地域交流ワークショップの開催														第1回ワーキンググループで内容確定
ア 沖縄本島及び周辺離島				■	■	■	■							
イ 宮古諸島							■	■						
(4) 発生抑制対策の実施-2 一般県民向けオンラインワークショップの開催				■	■	■	■	■	■					第1回ワーキンググループで内容確定
(5) 令和6年度以降の発生抑制対策の検討												■	■	第2回ワーキンググループで内容確定
報告書作成													■	

■ : 実施期間
□ : 準備期間



図 1.6-1 本業務の実施体制(案)

2 ワーキンググループの設置と発生抑制対策の検討	2-1
2.1 目的.....	2-1
2.2 ワーキンググループの構成	2-1
2.3 開催スケジュール.....	2-2
2.4 実施結果.....	2-3
2.4.1 令和5年度第1回海岸漂着物の発生抑制対策ワーキンググループ	2-3
2.4.2 令和5年度第2回海岸漂着物の発生抑制対策ワーキンググループ	2-12

2 ワーキンググループの設置と発生抑制対策の検討

2.1 目的

本業務は、沖縄県がこれまでに実施した海岸漂着物対策事業の結果を踏まえ、また、平成22～令和4年度まで運営された「海岸漂着物の発生抑制対策に係るワーキンググループ」を継続的に設置・運営し、事業実施内容を協議しつつ、地域計画に基づいた実効的な発生抑制対策を推進する。

2.2 ワーキンググループの構成

WGは、過年度の沖縄県事業で設置した県及び地域協議会委員を中心として、発生抑制に係る普及啓発活動の豊富な経験を有する者を構成員として選定し、効果的な発生抑制対策及び普及啓発のための協議を行った。WGの構成を表2.2-1に示す。

表 2.2-1 海岸漂着物の発生抑制対策ワーキンググループの構成

(順不同、敬称略)

●県協議会委員	
WG 構成員①◎	沖縄県立芸術大学全学教育センター 准教授
WG 構成員②	一般社団法人 JEAN 事務局長
●沖縄本島及び周辺離島 地域協議会委員及び地域関係者	
WG 構成員③	那覇クリーンビーチクラブ 代表
WG 構成員④	しかたに自然案内 代表
WG 構成員⑤	NPO 法人 久米島ホテルの会 事務局長
WG 構成員⑥	漫湖水鳥・湿地センター センター長
WG 構成員⑦	一般社団法人 沖縄リサイクル運動市民の会 環境プロジェクト担当
WG 構成員⑧	LitteratiJapan 代表 (株)マナティ ディレクター
●宮古諸島 地域協議会委員	
WG 構成員⑨	NPO 法人 宮古島海の環境ネットワーク 事務局長
●八重山諸島 地域協議会委員	
WG 構成員⑩	石垣島アウトフィッターユニオン 会長
WG 構成員⑪	サンゴ学習推進団体 わくわくサンゴ石垣島
WG 構成員⑫	一般財団法人西表財団 理事 兼 事務局長 NPO 法人 西表島エコツーリズム協会 理事
●教育関係者	
WG 構成員⑬	公益財団法人 沖縄こどもの国 (沖縄県地域環境センター) こども未来課 沖縄県地域環境センター担当
●事務局 沖縄県 環境部 環境整備課	

◎ : WG リーダー

2.3 開催スケジュール

WG は、令和 6 年 1 月と令和 6 年 3 月に各 1 回開催した。開催日時と場所は以下のとおりである。開催状況を表 2.3-1 に示す。

●第 1 回 海岸漂着物の発生抑制対策ワーキンググループ

令和 6 年 1 月 4 日（木）14:00～16:30 沖縄県庁（11 階 第 5 会議室）

●第 2 回 海岸漂着物の発生抑制対策ワーキンググループ

令和 6 年 3 月 22 日（金）14:30～16:30 沖縄県庁（11 階 第 2 会議室）

表 2.3-1 海岸漂着物の発生抑制対策ワーキンググループの開催状況



2.4 実施結果

2.4.1 令和5年度第1回海岸漂着物の発生抑制対策ワーキンググループ

第1回 海岸漂着物の発生抑制対策ワーキンググループ

議事次第

日時：令和6年1月4日（木）
14:00～16:30

場所：沖縄県庁
11階 第5会議室

議 事

開会（14:00）

1. 沖縄県あいさつ
2. ワーキンググループ構成員の紹介
3. 資料の確認
4. 議事

①令和5年度発生抑制対策検討業務実施計画(案)及びワーキンググループの運営について

【資料1】

②令和4年度の発生抑制に係る事業実施結果 【資料2】

③ワーキンググループの検討課題について 【資料3】

- ③-1 令和5年度の発生抑制対策の検討
- ③-2 地域交流ワークショップの開催
- ③-3 一般県民向けオンラインワークショップの開催

5. その他

閉会（16:30）

配布資料

資料1 令和5年度沖縄県海岸漂着物発生抑制対策検討業務実施計画(案)及びワーキンググループの運営について

資料2 令和4年度の発生抑制に係る事業実施結果

資料3 ワーキンググループの検討課題について

令和5年度

第1回 海岸漂着物の発生抑制対策ワーキンググループ 出席者名簿

(順不同、敬称略)

●県協議会委員	
WG 構成員①	沖縄県立芸術大学 全学教育センター 教授
WG 構成員②	一般社団法人 JEAN 事務局長
●沖縄本島及び周辺離島 地域協議会委員及び地域関係者	
WG 構成員③	那覇クリーンビーチクラブ 代表
WG 構成員④	しかたに自然案内 代表
WG 構成員⑤ (欠席)	久米島ホテルの会 事務局長
WG 構成員⑥	漫湖水鳥・湿地センター センター長
WG 構成員⑦	沖縄リサイクル運動市民の会 環境プロジェクト担当
WG 構成員⑧	LitteratiJapan 代表 (株)マナティ ディレクター
●宮古諸島 地域協議会委員	
WG 構成員⑨	NPO 法人宮古島 海の環境ネットワーク 事務局長
●八重山諸島 地域協議会委員	
WG 構成員⑩	石垣島アウトフITTERユニオン 会長
WG 構成員⑪	サンゴ学習推進団体 わくわくサンゴ石垣島
WG 構成員⑫ (欠席)	一般財団法人西表財団 理事 兼 事務局長 NPO 法人西表島エコツーリズム協会 理事
●教育関係者	
WG 構成員⑬ (欠席)	公益財団法人 沖縄こどもの国 (沖縄県地域環境センター) 経営みらい課 沖縄県地域環境センター担当
●オブザーバー	
事務局	
事務局①	沖縄県 環境部 環境整備課 課長
	沖縄県 環境部 環境整備課一般廃棄物班 班長
	沖縄県 環境部 環境整備課一般廃棄物班 主任
令和5年度沖縄県海岸漂着物発生抑制対策検討業務 受託者： 日本エヌ・ユー・エス(株)・(株)沖縄環境保全研究所 共同企業体	
事務局②	日本エヌ・ユー・エス(株) 環境調和ユニット
事務局③	日本エヌ・ユー・エス(株) 地球環境管理ユニット
事務局④	日本エヌ・ユー・エス(株) 環境調和ユニット／沖縄事業所
事務局⑤	(株)沖縄環境保全研究所 生活環境部 技術課 係長

令和 5 年度第 1 回発生抑制対策ワーキンググループ 議事概要

議題① 令和 5 年度発生抑制対策検討業務実施計画（案）及びワーキンググループの運営について

特になし

議題② 令和 4 年度発生抑制に係る事業実施結果

【WG 構成員⑦】 海底や海域のごみについて、県や国の農林水産分野の取組はあるか。

【事務局②】 水産庁の海底ごみ清掃の予算は多くなく、定期的に、また徹底的な漂流ごみや海底ごみの清掃が可能な補助金等の動きはなかなかないのが現状である。近年環境省の補助金が活用できるようになったので、今後は活用されていく形になると考える。

【事務局①】 県農林部局では海ごみ事業を継続して実施しているが、漂流ごみについて現状、把握しているものはない。市町村に補助金を交付していることから、環境省の補助金を活用した回収処理業務では市町村が漂流・海底ごみの回収を漁協組合に委託する方法もある。海岸漂着物回収は 9 割補助だが、漂流・海底ごみ回収は上限があるが 10 割補助となっている。農林だけではなく環境省の予算活用する方法がある。

【WG 構成員①】 漁港内の廃棄物の水産庁処理事業は実施しているが、それ以外の区域での回収事業はあるか。

【事務局①】 農林の所管する海岸は多くは市町村とボランティア団体の協力を得てボランティア清掃という形になっている。

【事務局①】 回収についても補助金を環境部局、土木部局で活用している。農林水産部所管の海岸が漁港周辺に一部あるが、それらにも補助金を活用している、市町村のボランティア清掃については市町村にそれぞれ補助金を出している。各漁港、港湾はそれぞれの補助金で実施している。

【WG 構成員②】（資料 2 p.47）短期、中期、長期の対策方針について、短期の対策方針に、すべての市町村の漂流ごみや海底ごみを一般廃棄物として受け入れることと、予算措置についての項目があげられているが、現状としてその受け入れが難しい、または全く困難という地域がどれほどあるか。受け入れられない地域の問題が予算で、今より何らかの予算が確保できれば受け入れられるのか。または、受け入れられない地域が多いなら、予算以外にも原因があるのか。

【事務局①】 市町村と県で毎年会議を実施しており、補助金の活用の紹介や周知は図っているが、補助金活用には市町村の申請が必要。地域の課題を把握されている市町村は補助金を積極的に活用しており、不足分については県でも調査して必要な地域には対応している。具体的な市町村の対応状況の整理はできていないが、例年補助金を活用している 23 市町村は積極的に受け入れ対応されていると思う。ただし、事業費も要望額に対して全額が確保できていない状況で、市町村、またボランティアの回収に対して十分ではないとの声も頂いているが、県としては引き続き財源を確保していく。

- 【WG 構成員②】海底ごみは、海岸漂着ごみに比べて付着物がある、分別が難しい、といった課題があると思うが、ヒアリングでそのような意見があったか。
- 【事務局②】昨年のヒアリングの中では、まず漂流・海底ごみについてほとんどの市町村がまだ理解が及んでいないところがある。そのため、ダイビング業者さんの回収ごみ等への対処が分からず生活ごみとして処理する様な対応となっているなど、漂流・海底ごみの理解と活用できる制度の周知については初期の段階という印象を持っている。
- 【WG 構成員①】ヒアリングでダイバーの中でも環境保全意識の高い人はごみを BC ポケットに入れて回収している。また最近ではサーファーは片手で拾える漂着ごみを拾っている。それらの回収ごみの処理はどうなっているか。
- 【事務局②】地域によって対応が異なるが、ある程度保管して市町村に相談しているところや、BC に入る程度のプラごみは家庭の生活ごみと一緒に処理している場合もある。後者の方が多かった。市町村とタイアップしたイベント等でまとまったゴミを回収している団体は、恩納村と宮古島市の一部であった。
- 【WG 構成員①】ダイバーの方はペットボトルが落ちてると自ら拾ってくる。そのまま生活ごみと同じように捨てていいかと聞かれた際にどう答えるべきかいつも疑問に思っている。少量であれば洗浄すればよいのか、やはりだめなのか、好意で回収している人に対して示せる指針があると良い。
- ペットボトルでも浮いている間に付着物がつくことで海底に沈む。ダイビング中にも一般的に海岸の漂着物と同じものを確認できる。海底の洞窟の中にはごみがたまる場合があり、写真を公開したい。水深 30m 程度の海底洞窟でも確認でき、世界中にある。特に釣りのごみが多く、釣り糸等が張り巡らされている場所もある。加えて漁業関連のごみ、もずく網等が確認できる。読谷村のダイビング業者も毎年海底清掃を実施しており、1 回で船の上が網でいっぱいになる。10 数年継続実施しているので状況を確認するとよい。
- 【WG 構成員③】海底ごみでもペットボトルや漁網、釣り糸は一般家庭ごみとして処理は可能か。
- 【事務局②】県内では初めてだと思うが、昨年度伊江村で本格的なダイビングによる海底ごみの調査を実施。伊江村の方に了解を得て、2 回目 WG でそのデータをお見せできればと思う。海岸のごみと共通しているものも多い。漁具の破片など海岸漂着物と重量的な組成は違うが種類は大きく変わらない。
- 【WG 構成員②】漂流中に付着物がつくと沈むのでショッピングの包装やレジ袋も海底に存在する。
- 【WG 構成員①】残波岬は 20 数年実施している。加えてサンゴ等が付いたごみの処理をどうしたらいいのか水産課に確認するべき。サンゴの水揚げは原則禁止だが漂流しているものは回収可能。パヤオ（浮遊礁）は陸揚げした際は付着しているサンゴを獲ってよい。他のケースは不明である。沖縄県でのルールであり、他の県では問題ない。沖縄県はサンゴの扱いがかなり厳しい。
- 【事務局②】ダイバーの回収した海底ごみの処理については、環境整備課で整理をお願いしたい。制度や法律では BC のポケットに入る程度のプラごみを回収した場合は

ボランティア清掃であれば一般廃棄物となり、市町村の処理では生活ごみになる。市町村に確認して生活ごみとして処理できるレベルを示して生活ごみとして処理することは問題ないか。

- 【事務局①】 事業による回収ではなくボランティア活動の範囲であれば可能。一般的にはボランティアで回収したものは一般廃棄物処理になる。
- 【事務局②】 過去に石垣市では、ボランティアで回収したごみであったが業務時間中の回収だったため、事業系廃棄物と判断されたケースがあるが、市町村の解釈としてしょうがないか。
- 【WG 構成員⑨】 遊んでいるときであればボランティア、ダイビングツアー、陸上ツアーなど仕事であれば事業系になる可能性があるということか。
- 【事務局①】 難しい点であるが、スムーズに進めるためには事前に市町村に確認することが必要である。取り扱い方が市町村によって少し異なる。県で統一したい考えもあるが、なかなか難しい。ごみの受け入れについては市町村の判断が優先される。
- 【WG 構成員③】 危険物も回収場所によって海上保安庁、警察署など対応先が異なる。
- 【事務局②】 海域では海上保安庁、陸地部分では警察署の扱いになる。潮をかぶっていたかで微妙な判断になった事例を数件聞いている。
- 【WG 構成員④】 インストラクターとお客だったらどうか、など指針を出せるといい。ごみを拾う事でインストラクターは収入を得ている訳ではなく、ごみの回収は本業ではない。海をきれいにしたい目的であり、常識的に考えればボランティア清掃にあたる。そのような場合はビーチクリーンと同じような判断するといった指針を検討会から市町村に発信するとよい。県内 41 市町村に対して補助金が活用されている市町村が 23 市町村と、補助金の活用も多くなく、補助金の周知は初歩的な段階であると考えられる。補助金の活用を含めた指針を整理してほしい。
- 【WG 構成員⑨】 ワンハンドビーチクリーンなどツアー中にお客さんと一緒に回収することもあるが、良い事をしていても回収ごみの扱いがグレーでは悪い事をしているようでやりづらい。
- 【WG 構成員⑩】 観光客も良かれと思って漂着ごみを拾うが、捨てる場所が分からず最終的には海岸に置いていく。明確なルールが周知されればよい。
- 【WG 構成員①】 与論島ではビーチにごみを置く場所が整備されている。
- 【WG 構成員⑩】 市町村によってはごみの置き場を作るのは難しい。その他のごみを捨てられる可能性があり、石垣市では難しかった。
- 【WG 構成員④】 中城村は整備している。設置後の運用について話が聞きたい。
- 【WG 構成員①】 ワンハンドビーチクリーンの海底ごみ版十分あり得る話であり、県内はダイビングのお客さんが多い。普段回収できないごみを拾ってくれる機会になる。
- 【事務局①】 法律の解釈も含め確認し、必要に応じてお伝えする。

議題③ ワーキンググループの検討課題について

議題③-1 令和5年度の発生抑制対策の検討

特になし

議題③-2 地域交流ワークショップの開催

【事務局②】開催するにあたって2地域それぞれのワークショップにおいてWGメンバーの中から4、5人程度スタッフとして係わってほしい。

【WG 構成員②】両地域候補地ともにふさわしいが、既に地元の行政とは連絡を取り始めているか。

【事務局②】このWG終了後に地元行政との調整を始める予定である。本部町については、地域おこし協力隊の方も海ごみ教育の実施に動いていた様子があり、担当課の対応も悪くない印象である。候補地についてはこのWGを踏まえて最終決定する方針なので様々な意見を伺いたい。

【WG 構成員⑦】名護市で実施すれば国頭、東、大宜見3村が参加する可能性もある。

【WG 構成員⑦】瀬底小学校は関心が高い。総合学習で海ごみやウミガメを取扱っている。特に海ごみの環境教育について力を入れている。

【WG 構成員④】本部町は美ら海水族館があるのでウミガメに海ごみを絡めた内容なら受け入れる可能性はある。

【WG 構成員④】資料中の参加候補以外に小さな団体はもっとあると思う。

【事務局②】案では2日間の開催としているが、事前に関係者にヒアリングしたところ、1日で開催の方がよいとのご意見を頂いている。

【WG 構成員②】開催内容を盛りだくさんにしない方がよい。どちらの地域もお互いの交流が進んでいないためそれぞれの活動を知り合うところから始めたいというご意見が出ている。そこに時間をかけたい。これから仲間になる人たちであり、それぞれの経験値が違うので内容を詰め込まない方がよい。意見交換の場に時間を取るとよい。

【WG 構成員①】本島北部地域は2月3日、宮古島地域は2月18日（後日決定）開催とする。開催内容は先ほど意見があったように詰め込みすぎないように、地域の交流を第一の目標にして、沖縄や他の地域でやっている事例等を紹介できればよい。

【WG 構成員①】無理してビーチクリーンをしないで交流の時間にあてたい。

【WG 構成員⑨】ビーチクリーンの実施の有無で交流の時間が変わってくる。ビーチクリーンはなくてもよいと考えていた。それよりも個々の活動の情報共有や様々な意見交換に時間をかけた方がよい。

【WG 構成員①】県が作成したごみの分別等のビーチクリーンの基本的な資料を参加者に配布するとよい。

【事務局②】県の取組等の資料を説明する時間を節約するために、資料は事前送付しておき、なるべくディスカッションの時間を確保する方針で検討する。また、会場への移動を考慮して午前は遅めに開始し、昼休みを挟んで午後も実施するなど、案を作成して相談する。

【WG 構成員①】 スケジュールや開催内容は参加しない WG 構成員にも共有してほしい。

議題③-3 一般県民向けオンラインワークショップの開催

【WG 構成員①】 3月2日の開催とする。

【WG 構成員①】 紙芝居ワークショップの発表する時間を確保する必要がある。

【WG 構成員④】 紙芝居ワークショップは対面で実施するには良いが、オンラインでは色々なハードルがある。相互理解がまだ煮詰まっていない状態では意見が出しづらい、また食い違うこともあり、時間内に無理やりまとめがちになるが、丁寧にやらないと良い結果にならない。時間的にも難しい。前半も発表を聞く時間になっていて相互が声を発する時間がない。昨年のようにお互いの自己紹介をしつつ話し合う時間を作ってもよいと思う。

【事務局③】 他の取組が知れて良かったとの感想があったので知りたいというところで需要が高いと考えた。中途半端になってしまうのであればどちらかに絞ってもいいと思う。

【WG 構成員④】 10月に子供の国と環境交流会をやった際、久米島や宮古等様々な地域から参加があり、初めて会う人同士が取組や課題等をざっくばらんに話し合える時間を長くとったのが良かったと言われた。今回の資料中の案は、その点が足りていないと感じた。地域ワークショップを設けた後に、県全体のオンラインワークショップという枠で実施する意味を考えた時、島を跨いだ参加者同士をグルーピングして話し合う場を作るといった方針でも良いかと考える。何かをみんなで作る前の段階の取組がもうひとつ必要な気がする。

【WG 構成員⑩】 来年につなげるためにも2月の地域交流ワークショップの報告が必要。

【事務局③】 台湾からの参加については現時点では調整していないが、去年までの繋がりも続いている。面白い取組をやっている団体が多いので沖縄の方々にも刺激になると思う。継続したいという事で計画に盛り込んでいる。

【WG 構成員②】 グループ討議のテーマについては、交流の時間を作る方が良い。

【WG 構成員②】 沖縄県内の活動紹介団体の選定は慎重に行う必要がある。県が推薦している団体とみなされる。県内の取組であれば単独の団体ではなく地域交流ワークショップの紹介の時間にあててもいいと思う。

【WG 構成員⑪】 WG 構成員の活動を紹介するのも良い。一般の方は知らない活動もたくさんある。

【WG 構成員①】 WG 構成員の活動紹介は、Zoom で開催するのであれば、フライヤーで貼り付ける場所を作ると良い。ランチタイムに目を通しておいてもらえる。

【WG 構成員①】 県内の活動紹介の代わりに地域交流ワークショップ開催内容の紹介を入れると良い。様々な地域からの参加があるので、次年度も開催する場合の PR にもなる。

【WG 構成員②】 紙芝居の実施例が好ましくない。ペットボトルは再生したら衣類になるが、海のマイクロプラスチックで一番多いのが繊維である。ペットボトルはリサイクルできるからよい、衣類に再生されるから使用しても良いといった間違っただ誘導になる可能性もあるため、発信者として気を付ける必要がある。

- 【WG 構成員⑧】 午後のグループ討議について、午前中の沖縄県内の活動紹介の時間がなくなってしまう。各団体 2、3 分プレゼンをしてもらった上で他の団体と掛け算になるようなワークショップになればいい。他の団体の取組について知りたい気持ち強いと思う。
- 【WG 構成員⑦】 タイトルがワークショップであるがワークショップにこだわらなくてもいい。
- 【WG 構成員①】 Zoom ではチャットに資料を貼り付けられる。それであれば 1 分程度で説明できる。
- 【WG 構成員⑧】 チャットに貼り付けて 1、2 分で説明いただき、グループをいくつかに分けておいて、そのグループの中で今後一緒にできる活動があるか、この団体とこの団体をかけあわせると面白い、といった話ができるイベントだけで終わらないと思う。
- 【WG 構成員①】 もし資料が無ければ無理して用意しなくても、口頭でもよい。
- 【WG 構成員③】 沖縄まるごとごみ拾いというイベントで他の活動団体について聞かれた。県内の団体が紹介できるチャンネルがあってもいい。
- 【WG 構成員④】 「沖縄まるごとごみ拾い」は沖縄 SDGs プラットホームに紹介されている活動で、9 月に 41 団体がビーチクリーンを実施している。その時の実行委員長津波さんや、沖縄のユネスコ協会のトチノさんなどが参加しており、その中で海ごみについて取り上げる動きがある。そのような活動とこの WG が連携していないのが気になる。県のプラごみ削減会議もあるが、お互いの活動内容が共有されていない。県からお互いに紹介いただけると良い。
- 【WG 構成員①】 海ごみの問題はどこでいろんな活動があってもよいが、それらが繋がればなおよい。この WG は県の沖縄県海岸漂着物等地域対策推進事業の枠組みでの活動だが、これからのこの WG の在り方にも関係する。無理に何か目標を作らなくてもよい。いつも何か作らないといけないという考え方もあると思うが、それは県に成果物がなくてもよいと認めてもらえればよい。交流の場に意義を見出してもらいたい。
- 【WG 構成員⑨】 皆さんが 2、3 分で活動紹介してくださるのはとてもよいが、時間内に難しければ事前に活動や課題をまとめた資料を事前に見られるようにすると良い。
- 【WG 構成員④】 それらの活動紹介資料をどこかに掲載して広く閲覧できるのであれば、それだけで今年の沖縄海ごみ団体紹介ができる。
- 【事務局②】 毎年 50～60 団体がワークショップに参加している。そのうち 30 団体程度情報提供したいとなると、それを全体でやるのか、あるいは 10 団体程度にグループ分けした方がよいのか。それを踏まえてプログラムのたたき台を作りたい。
- 【WG 構成員③】 地域で分けるのはどうか。
- 【WG 構成員①】 事前に申し込むときにカテゴリーが設定出来るような聞き方をするのはどうか。地域や活動内容を聞いてグループを分けてもいい。
- 【WG 構成員④】 目的によって分け方は変わる。地域内で知り合っ欲しいなら地域毎にグループを作ればよい。いろんな団体と知り合っ欲しいのであれば地域をミックスするようなグループを作る。グループ内で自己紹介をしてもらおう。フォーマットは全員の分が見られるようにしておく。どの部屋にでも自由に飛べ

るフリータイムもあっても良い。

【WG 構成員①】 カテゴリーは参加団体数次第。

【WG 構成員④】 自己紹介タイムを、人を入れ替えて 2 回実施する方法もある。

【WG 構成員①】 参加者がある程度固まれば、それを踏まえて考えてもファシリテーター経験が多い人材が豊富だからできそうな感触である。時間だけしっかりとっておけばいい。基本的にGoogleフォームで作成する方向で考えて頂きたい。

【WG 構成員①】 アンケートについては、Zoom のアンケートの機能を使って全員で見られるようにすると振り返りになる。

【WG 構成員①】 開催日時は 3 月 2 日（土）10:00～15:00 時過ぎ。午前中が県の取組や台湾の取組、午後が各団体の交流の時間。事務局に司会は調整してもらおう。各団体の紹介や交流の時間はできるだけ長くって頂きたい。

以上

2.4.2 令和5年度第2回海岸漂着物の発生抑制対策ワーキンググループ

第2回 海岸漂着物の発生抑制対策ワーキンググループ

議事次第

日時：令和6年3月22日（金）
14:30～16:30

場所：沖縄県庁
11階 第2会議室

議 事

開会（14:00）

1. 沖縄県あいさつ
2. 資料の確認
3. 議事

①令和5年度第1回海岸漂着物の発生抑制対策ワーキンググループ 議事概要(案)
【資料1】

②発生抑制対策の検討

- ③-1 地域交流ワークショップの開催結果【資料2】
- ③-2 一般県民向けオンラインワークショップの開催結果【資料3】
- ③-3 令和6年度以降の発生抑制対策の検討【資料4】

4. その他

閉会（16:30）

配布資料

資料1 令和5年度第1回海岸漂着物の発生抑制対策ワーキンググループ 議事概要(案)

資料2 地域交流ワークショップの開催結果

資料3 一般県民向けオンラインワークショップの開催結果

資料4 令和6年度以降の発生抑制対策の検討

参考資料 令和5年度 伊江村における海底ごみ回収事業の概要

令和5年度

第2回 海岸漂着物の発生抑制対策ワーキンググループ 出席者名簿

(順不同、敬称略)

●県協議会委員	
WG 構成員①	沖縄県立芸術大学 全学教育センター 教授
WG 構成員②	一般社団法人 JEAN 事務局長
●沖縄本島及び周辺離島 地域協議会委員及び地域関係者	
WG 構成員③	那覇クリーンビーチクラブ 代表
WG 構成員④	しかたに自然案内 代表
WG 構成員⑤	久米島ホテルの会 事務局長
WG 構成員⑥ (欠席)	漫湖水鳥・湿地センター センター長
WG 構成員⑦	沖縄リサイクル運動市民の会 環境プロジェクト担当
WG 構成員⑧	LitteratiJapan 代表 (株)マナティ ディレクター
●宮古諸島 地域協議会委員	
WG 構成員⑨ (欠席)	NPO 法人宮古島 海の環境ネットワーク 事務局長
●八重山諸島 地域協議会委員	
WG 構成員⑩ (欠席)	石垣島アウトフitterユニオン 会長
WG 構成員⑪	サンゴ学習推進団体 わくわくサンゴ石垣島
WG 構成員⑫ (欠席)	一般財団法人西表財団 理事 兼 事務局長 NPO 法人西表島エコツーリズム協会 理事
●教育関係者	
WG 構成員⑬ (欠席)	公益財団法人 沖縄こどもの国 (沖縄県地域環境センター) 経営みらい課 沖縄県地域環境センター担当
●オブザーバー	
事務局	
事務局①	沖縄県 環境部 環境整備課 課長
	沖縄県 環境部 環境整備課一般廃棄物班 班長
	沖縄県 環境部 環境整備課一般廃棄物班 主任
令和5年度沖縄県海岸漂着物発生抑制対策検討業務 受託者： 日本エヌ・ユー・エス(株)・(株)沖縄環境保全研究所 共同企業体	
事務局②	日本エヌ・ユー・エス(株) 環境調和ユニット
事務局③	日本エヌ・ユー・エス(株) 地球環境管理ユニット
事務局④	日本エヌ・ユー・エス(株) 環境調和ユニット／沖縄事業所

令和5年度第2回発生抑制対策ワーキンググループ 議事概要

議題① 令和5年度第1回発生抑制対策ワーキンググループ 議事概要(案)について
特になし

議題② 発生抑制対策の検討

議題②-1 地域交流ワークショップの開催結果

【WG 構成員⑧】今回、宮古島 WS に参加した。地域の方たちの取り組みをお互いに知ることも大事だし、この繋がりからまた新しいものが生まれてくるのだと実感した。2月は地域の行政が忙しくて参加し辛いため、開催時期などの再検討が必要である。

【WG 構成員④】開催時期等に関しては、WG 構成員⑧の意見と同様である。加えて早く準備に取り掛からないと、参加募集も十分にできない。また、年が明けると関係者は忙しくなる。海ごみ関連団体は1~2月は活動で忙しい。できれば、11~12月に開催できれば、そのシーズンの活動に生かせる。

北部、宮古のアンケート結果をみると、もっと深く知りたいと思うことについての結果において、「工夫やアイデア」、「プラスチックの削減」、「行政との連携」の意見が多く、両地域で共通している。活動している側の要望が明確になっている。今までのワークショップでは、主に自由な意見出しをする場としてきたが、今後の課題として、もっと具体的な協議や改善策をお互いに出し合える場を作るニーズを感じた。

【WG 構成員⑤】サンエーやイオンなど一般の人が集まるような会場で開催し、参加しなくてもこのようなイベントを実施していることを知ってもらうのも良いのではないか。

議題②-2 一般県民向けオンラインワークショップの開催結果

【WG 構成員①】参加者28名となっているが、WG 以外のメンバーの参加者数は。

【事務局③】16名。午前中のみ参加者もいた。

【WG 構成員①】そのうち一般のアンケート回答数は何件だったか。

【事務局③】全体回答数は13名。午前中退出の方も回答があった。現在、WG メンバー以外の正確な回答数は把握できていない。

【WG 構成員①】午後はWG メンバーがほとんどだった。WS のアンケート回答はほとんどWG メンバーの回答なので、良い意見が得られたと言えるデータ結果であったのか。結果的に良いイベントにはなっていない。報告書を取りまとめる際に、この辺りをしっかり見直して欲しい。これで県として良い結果が得られたと感じてしまう様では良くない。先ほどから、全体的に開催時期が遅いという意見が出ている。恐らく契約時期が絡むのだろうが、とにかく早く進めて欲しい。せっかくのイベントで経験知識豊富なWG メンバーが集まっているのに、それが生かしていない。参加者も十分に集まらずもったいない。

【WG 構成員③】次年度も実施するなら、計画的に集客を図っていくような取り組みを考える

必要がある。ここの部分は今までWGで十分な議論は無く、自分の知り合いに声をかける範囲だった。誰がどこに声掛けをするというような目標や計画が必要と感じる。

- 【WG 構成員⑫】これから取り組みたい人や取り組み始めた人たちには、1日のイベントはハードルが高い。次回、誰にターゲットを置くかによるが、最大3時間程度に設定してハードルを下げ参加しやすくするのが良いと感じた。
- 【WG 構成員⑧】関心のある大人達を対象にするのが良いと感じた。ビーチクリーンに参加したことはあるが、主催するほどではない人。環境学習や悩み解決や知識になっていくようなオフラインのWSになると、参加者もわくわくできるのではないかと思う。インプットするだけや、話ができるだけでは、あまり解決策に繋がらないことが多いと感じている。少しかたちを変えていく検討も必要だと感じた。
- 【WG 構成員⑦】全体討議において、発生抑制の話がしっかりできた。発生抑制対策のワークショップであるが、今まではビーチクリーンの議論が多く、発生抑制をどうやって議論できるかと悩んでいたのも、今回はその点は良かったと感じた。また、ビーチクリーンの皆さんの交流にも、ネットワークづくりや場づくりが必要だと感じた。ビーチクリーンの交流、発生抑制の議論の場と別々に開催しても良いと感じた。新しくビーチクリーン活動を始めた団体などにおいては、まだ拾う事に注視するような方もいた。それはそれでよいのだが、それぞれでしっかり考えていく必要がある。課題も見えてきたが、手応えも感じた。
- 【WG 構成員②】地域WSには出席できなかったが、アンケートや全体の意見や要望をここで終わりにせず、WGでこの意見をどうやって反映できるか検討すべきだと感じた。1日の開催時間が長すぎるなどの事情があったかもしれないが、あまりにも準備期間が短かったのも、十分な参加者を得るに至らなかったと思う。昨年も開催時期を早める要望をWGから出している。
- 【WG 構成員⑪】当日、不参加で申し訳なかった。石垣島だと土日に仕事をしている人が多く、1日時間を取って参加するのはハードルが高く難しい。午前中や午後など、時間を変えていくことで、集客が増えるか試すのも良いと思う。せっかくのコミュニケーションを図れるような大事な場が、毎年いつも準備時間がなくギリギリになり、うまくできていない。来年はみんなで改善していけたらと思う。
- 【WG 構成員⑬】WG以外の参加者の感想が分かれば、次の取組にも繋ぎやすい。アンケートで新たな意見がなかったか気になる。初参加の人の意見など、今後検証できたら良いと思う。
- 【WG 構成員①】事務局側でアンケート結果の見直しをお願いしたい。
- 【WG 構成員④】広報の期間が短く、開催内容の打合せも充分でなかった。ファシリテータとしての中身を組み立てるのも難しかった。フライヤーについても参加意欲を刺激することに繋がっていなかった。WSの企画をするのに、準備がなさすぎて、中身の良いものにならなかった。アンケート結果にも、「何も得るもの

がなかった」という回答もあり、反映されている。中身やターゲットを決めるにも、この事業全体を早く組み立て、考えられるようにしたい。3月頃は社会全体において非常に忙しい時期。それも参加者を減らしている一因である。

議題②-3 令和6年度以降の発生抑制対策の検討（案）

- 【WG 構成員⑦】黒潮クリーンアップのサイトだが、みなさん感じているかと思うが、早く予算をつけていただき、県事業として発信していく場所になって欲しい。
- 【WG 構成員④】色々やってみたいことも、課題もたくさんあるが、このWGを始めるのが冬からになる。少なくとも9月くらいから始められるとやれることが考えられる。その辺の見通しについて、事務局はどうか。
- 【事務局①】早めて欲しいと昨年からも意見を重々と聞いている。モニタリング調査を発注していて、モニタリング調査の余った金額を発生抑制の予算に加えている。モニタリング調査の金額が確定すれば始められる。現在、最速7~8月予算化を目指してスケジュールを組み立てているところである。
- 【WG 構成員①】7~8月からなら秋にはイベントが出来る。プラスチック削減にも踏み込めるかもしれない。
- 【事務局②】以前は国の補助金が2年単位だったため、翌年早く取り掛かれた。単年が変わってから、1番早く発注されたのが平成29年で、8月中に採択して9月から事業が開始された。モニタリングもあるので、その辺りが最速になる気がする。それまでに前年度の課題などを報告書に取りまとめておき、翌年に取り組みのが現実的かと思う。
- 【WG 構成員⑬】そのスケジュールであれば、秋にイベントが出来そう。ざっくり方向性だけでも決めておいたら動きやすいと思う。大枠があれば、動き始めにアイデアが出しやすい。
- 【WG 構成員⑧】WG 構成員⑬が話していたのは、プラスチック削減など大きなイベント向けだが、自分はターゲットを絞ってやってみるのも良いと思う。一般向けの大きいイベントでプラスチック削減、真剣にビーチクリーンに取り組んでいる人には、地域WSにてメソッドを共有。一般向けにはなんとなく環境や関心のある人など、ターゲットを決めるといい。9月から入るには学校の環境教育には難しいかもしれないがどうだろうか。
- 【WG 構成員①】学校には単発でしか入れないし、個人的にここのWGメンバーでやるにはあまり意味がないように感じる。WGがやらなくても、それぞれの人が色々な学校でやっている。WGメンバーでやるなら全体で動くような働きかけをするべき。
- 【WG 構成員⑧】WGには経験豊富な人材が集まっている。学校に入るには、カリキュラムを作って、関心の高い学校向けに探究の時間としてしっかり伝えるような、きちんと組んで環境教育に取り組むのが良いと思う。中高生、大学生がWGに参加する検討をしていきたい。もっと関心のある人や本気で活動できるバイタリティのある若者がいると思う。小規模でもよいので座談会やイベントなどが出来ると良いと思う。

- 【WG 構成員①】若い世代が取組むきっかけづくりは重要。どのような事をやりたい、やるべきか意見を集める会合が望ましい。
- 【WG 構成員⑩】宮古 WS に参加した。対面で、団体数は少なかったが、すごく重要性を感じた。今回の開催時期は、卒業シーズンや準備、行事ごとが重なっており、参加しづらかった。9月くらいから準備できれば、学生や色々な人が参加しやすい時期を選べ、地域交流をもっと深掘して出来ると思う。
- 【WG 構成員⑤】発生抑制対策が私たちの肝だと思う。脱プラスチックの方向性を見せるイベントをやりたい。イオン、サンエーなどでマイバッグを持つ。神奈川県 JAMSTEC 中島さんのお話で、海底ごみのうちレジ袋が1番多いと聞いた。陸域の発生抑制として、私たちの毎日の暮らしの中のプラスチック容器を考えるイベントが有効だと感じている。
- 【WG 構成員④】学校教育はWGでやらなくてもいいと思う。ビーチクリーンの経験年月の浅い方が増えてきている。一方でノウハウを蓄積し拾うだけではだめだとよく理解している人もいる。スーパーでの一般向けと、交流WSでは交流の場ではなく、海ごみを深く理解して、私たちはどこを目指して見ていかななくてはならないかをお互いに学ぶ海ごみ研修や勉強会のような場所にしてみるのも良いと思う。
- 【WG 構成員①】オンラインでレクチャーなども良い。
- 【WG 構成員⑫】WSをやっても、市町村レベルで解決していけることがあるのに市町村担当者が参加していない。土日の参加は難しいかもしれないが、市町村担当者がしっかり参加できるものを作ってほしい。地域協議会がないのも、市町村と絡められない原因なのかもしれない。地域協議会を復活する予定はあるのか。
- 【WG 構成員①】県委員会も開催されていない。
- 【事務局①】地域協議会については、これまでの経緯を確認しなくてはいけないが、令和3年度の海ごみ計画改定時には開催した。計画に絡む以外にも議論の場があるものなのか。
- 【WG 構成員①】このWGの親委員会の正式名称は何だったか。
- 【事務局①】親委員会はなく、計画策定のための協議会という組織体があり、地域の行政や県の他部署が入っており、WGとは違う認識である。
- 【WG 構成員②】県の計画についての意見を交わすだけでなく、県の海洋ごみの取り組みや事業の説明、今後の予定などについても、海岸漂着物対策推進協議会では、県全体と市町村も含めた関係者が入って意見を交わす内容だったと思う。
- 【WG 構成員①】コロナ禍以前には、協議会の中でWGの活動報告がされていた。協議会があれば、WGの活動や課題を地域関係者にも伝えられると思う。
- 【事務局①】今年度、保健所主体で宮古・八重山の地域連絡協議会開催の報告も聞いているが、保健所内での実施だった。WGメンバーが入ってできないか相談し、もう少し調整し報告したい。
- 【WG 構成員⑤】久米島町においても地域の連絡会議が必要。久米島地域では、町民への伝達を久米島ホテルの会がボランティア活動でやっていると思われる。県からも市町村に連絡協議の場の確保について要請して欲しい。

【WG 構成員①】事業の開始時期を早められると、色々なことが出来る。県も異動や、環境三課が大変だと聞いているが、なんとか頑張っていたきたい。よろしくお願いします。

議題③ その他

【事務局②】来週中に本日の議事概要（案）を送るので確認お願いしたい。

【事務局①】長時間にわたって、ご議論ありがとうございます。今後も発生抑制対策についてもご協力よろしくお願いいたします。WGについて、昨年もWG 構成員①とみなさんに意見をいただいたが、今年も遅くなってしまった。軽石の仮置き場の件で、長引いてしまった。また遅れたことをお詫びする。今後共よろしくお願いいたします。

【事務局②】WGの将来のことも考えて、一般社団法人しまぬわにオブザーバー参加を要請したい。この場で意見を伺いたい。

【WG 構成員①】是非呼んで頂きたい。WSにも参加いただいたが、問題ないと思う。

【WG 構成員⑦】同意する。

以上

3 令和5年度の発生抑制対策の検討	3-1
3.1 目的.....	3-1
3.2 本業務における発生抑制対策の取組項目	3-1

3 令和 5 年度の発生抑制対策の検討

3.1 目的

令和 4 年度 WG で取りまとめた「令和 5 年度以降の発生抑制対策の検討(案)」をもとに、令和 5 年度の発生抑制対策に係る取組（案）を検討し、効果的な発生抑制に関する取組につなげることを目的とする。

3.2 本業務における発生抑制対策の取組項目

本業務において選択した発生抑制対策の取組項目は、以下の 3 項目である。

- | |
|-----------------------------------------------------------------------|
| <p>①地域交流ワークショップの開催
②一般県民向けワークショップの開催
③市町村毎の海岸清掃方法の普及啓発支援※</p> |
|-----------------------------------------------------------------------|

※③は「①地域交流ワークショップの開催」に実施

これらの取組項目は、沖縄県による令和 4 年度の沖縄県事業の中で検討された「令和 5 年度以降の発生抑制対策の取組(案)」を踏まえたものである。この令和 5 年度以降の発生抑制対策の取組(案)を表 3.2-1 に示す。なお、表 3.2-1 では、本業務において選択する取組項目に関連する部分を赤文字斜体としている（前述の WG 設置・運営を除く）。

①「地域交流ワークショップの開催」については、令和 4 年度の沖縄県事業で実施した WG や一般県民向けワークショップにおいて、活動団体が少ない地域や県内の発生抑制対策に係る情報共有が充分でない地域では、WG 構成員を通じた情報共有や今後の活動のための意見交換が有効であるとの課題が整理されていることから、WG 構成員を中心とした地域交流を実施するものである。

②「一般県民向けワークショップの開催」については、沖縄県内における海岸漂着物の回収・発生抑制に関する活動を行っている個人、団体の情報交換の場が少ないことから、それぞれの活動における気づきを得ること、様々な個人・団体の横のつながりを作ること、つながりを通じて更なる回収・発生抑制対策の広がり・進展を得ることを目的として一般県民を対象としたワークショップを開催する。なお、令和 3、4 年度開催の一般県民向けワークショップ事後アンケート等で継続開催を要望する意見があったことから、本年度の取組項目として適していると判断した。

③の取組は、市町村ごとに海岸清掃における相談窓口や分別方法等が異なることから、その普及啓発の支援を行う。具体的には支援のためのツールを①「地域交流ワークショップ」の開催時に参加者へ説明・配布を行う。

表 3.2-1 令和5年度以降の発生抑制対策の検討内容(案)

※ **赤文字斜体** は本業務において選択する取組項目に関連する部分 (WG の設置・運営を除く)

沖縄県公示資料より作成

取組項目	取組内容(案)
①ワーキンググループの設置・運営	<ul style="list-style-type: none"> ・本業務で組織・運営するWGを今後も継続し、海岸漂着物の発生抑制対策に係る課題と対策方針、更にはその実行性を高めるための協議を行う。開催回数は年2~3回程度とする。 ・県主催の環境フェアへのワーキンググループとしての参加。
②陸域からの発生抑制対策の検討・実施	<ul style="list-style-type: none"> ・地域あるいは流域圏単位において、主に市民生活、地域産業、関係行政がそれぞれあるいは連携して目標を持ったごみの排出抑制に取組む体制の検討。 ・使い捨てプラスチック容器等減量に係る普及啓発の検討(官民連携により、主にイベント運営者、参加者それぞれ個別に実施)。※地域の小売店、釣人への普及啓発も検討する。 ・県内の大規模なイベント等(県産品イベントやマラソン大会等)におけるプラスチック容器の削減(マイ食器やリユース食器の導入等)に向けた県内の多様な関係者が連携した取組実施。※県内で実績あり。準備と実施で2年度に渡る取組が望ましい。 ・大手のファーストフード店との連携によるプラスチック容器減量の取組検討。
③海域からの発生抑制対策の検討・実施	<p>マリンレジャー等の観光業、漁業従事者、海を利用する住民や観光客等を対象とした発生抑制対策として、①R04年度から引続き情報収集対象の拡大と市町村による調査継続、これを受けた対策検討、(対策検討の候補として)②県内各地域における海の利用者、利用業界を対象とした普及啓発のためのワークショップを開催、③海域からの発生抑制対策に係る普及啓発方法の検討・教材作成)。</p>
④県内各地域における対策に係る課題抽出と対応策	<p>過年度の沖縄県事業により、県内で求められている発生抑制対策や環境教育・普及啓発の内容は各地域により様々であるため、各地域に適応した発生抑制対策や環境教育・普及啓発方法を調査・検討。</p>
⑤人材育成の取組	<p>発生抑制対策に係る人材が不足しており、県主導で人材育成の支援実施を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の環境教育に対する民間団体の支援や連携について、事例集の形で調査・整理する。 ・県内各地域の事情に応じた人材育成の取組方法の検討と、試行的実践。 ・県内では海岸漂着物の発生抑制対策に係る人材や後継者が不足している状況から、次世代を担う大学生やボランティア清掃活動を実施している者が学校の出前授業や海岸清掃活動の現場で活用できる環境教育・普及啓発プログラムを検討する。 ・普及啓発、環境教育だけでなく海岸清掃活動を主体的に実施する人材の育成も必要。 ・ 中高生あるいは大学生がワーキンググループの議論に参加できる機会を検討。更には合同による海岸清掃などの活動を組み合わせる。あるいはワーキンググループメンバーが関わる座談会的なイベントを検討。 ・ 活動団体が少ない地域(例:県北部など)における情報交換の場の創造。活動団体の少ない地域でボランティア清掃を行っている団体を対象に海岸漂着物に関する講習会や情報交換会を実施し、県内団体の活動の底上げを図る。
⑥環境教育・普及啓発の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・民間団体による学校での環境教育については、対象校の拡充や継続的な実施のため、行政(県・市町村の廃棄物担当部局及び教育委員会等)、民間の連携・協力体制構築が必要。 ・海岸漂着物に係る環境教育については、現状は県内各地域で内容やレベルがまちまちである。この課題を地域毎に解決するのは困難であり、県が主体となって進める。
⑦普及啓発教材の有効活用	<p>・過年度の沖縄県事業では、様々な環境教育・普及啓発教材やプログラムが検討・作成されてきたが、それらが必ずしも有効活用されていないこと、また、増刷の要望が高い教材があることから、これらの課題に対応する。</p>

<p>⑧ 海外交流事業計画・運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・環境教育プログラムの共有と環境教育・普及啓発の活動報告、活動報告を踏まえたより効果的な活動内容に係る協議 ・海域からの発生抑制対策に係る課題の抽出と対策実施のための協議 ・陸域からの発生抑制対策に係る官民・地域関係者の協力連携体制構築のための協議 ・情報共有プラットフォームの継続的な活用と運用
<p>⑨ 一般県民向けワークショップの開催</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・県内で海岸漂着物の回収や普及啓発活動を実施している企業、民間団体、住民を対象として、県内の官民それぞれの取組や東アジアの取組を共有しつつ、今後の活動内容を考えるためのワークショップを開催する。このワークショップは継続する事が大切であり、効率的・効果的な開催に向けて開催時期を決定する。
<p>⑩ その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・県内における情報交換の場の継続的な活用。黒潮クリーンアップサイトの拡充と運営、活用方法の検討。 ・市町村の役割分担、体制の確認を目的として市町村の受入窓口、受入体制等をまとめた案内を作成。民間団体と市町村の連携強化、漂着物回収活動の円滑化を推進する。

4 地域交流ワークショップの開催結果	4-1
4.1 目的.....	4-1
4.2 対象地域と開催日時	4-2
4.3 実施方法.....	4-2
4.3.1 実施体制.....	4-2
4.3.2 参加者の募集	4-2
4.3.3 参加者	4-7
4.3.4 実施内容.....	4-8
4.4 実施結果（本島北部地域交流ワークショップ）	4-11
4.4.1 アイスブレイク	4-11
4.4.2 自己紹介ワークショップ	4-11
4.4.3 沖縄県の取組紹介	4-12
4.4.4 ワークショップ えんたくんで海ごみゆんたく！	4-17
4.4.5 全体会（全体討議）	4-20
4.4.6 参加者アンケート.....	4-21
4.5 実施結果（宮古島地域交流ワークショップ）	4-25
4.5.1 アイスブレイク	4-25
4.5.2 自己紹介ワークショップ	4-25
4.5.3 沖縄県の取組紹介	4-26
4.5.4 ワークショップ えんたくんで海ごみゆんたく！	4-31
4.5.5 全体会（全体討議）	4-34
4.5.6 参加者アンケート.....	4-35
4.6 今後の方針・取組案.....	4-39

4 地域交流ワークショップの開催結果

4.1 目的

令和4年度の沖縄県事業で実施した海岸漂着物発生抑制対策ワーキンググループ（以下「WG」という。）や一般県民向けワークショップにおいて、活動団体が少ない地域や県内の発生抑制対策に係る情報共有が充分でない地域では、人材の掘り起こし、各活動主体の連携や協力体制の確立、情報共有や協議の場等の継続的な取組が必要であり、そのための一助としてWG構成員を通じた情報共有や今後の活動のための意見交換の機会が有効であるとの指摘がされている。

そこで本取組では、海ごみ対策について情報共有や意見交換等の機会が少ない地域において、その地域で活動している企業・団体・個人等を対象にWG構成員との交流を目的としたワークショップを実施する。なお、本年度の沖縄県事業ではこの取組を県内の一部地域でしか実施できないものの、今後は県内において同様の取組の拡がりを睨んだ内容で実施することも目的とする。

【参考】 沖縄県海岸漂着物対策推進計画（令和3年度改定）より抜粋

第1章 3. 沖縄県における海岸漂着物対策の基本的方向性 (3) 多様な主体の適切な役割分担と連携の確保

③ 民間団体等との緊密な連携と活動の支援

ア 民間団体等の知見等の活用と緊密な連携

民間団体等は、海岸漂着物等の処理等において自ら活動を行うことに加え、県民による活動の促進のための環境教育や普及啓発活動等への参画を通じて地域の各主体の連携・協働のつなぎ手としての重要な役割を担うことが期待される。

沖縄県は、これらの団体が豊富な経験と知識、幅広いネットワーク、海岸清掃のノウハウ等を有していることを重視し、これらの知識や技術等を県内において幅広く活用できるよう配慮する。更に、これらの団体との緊密な連携の確保に努めることが必要であり、民間団体等による充実した活動に向けた支援（財政上の配慮、技術的助言等）に努めるものとする。

第2章 4. 効果的な発生抑制対策に係る事項 (1) 普及啓発と環境教育、将来の海岸漂着物対策を担う人材の育成

① 環境教育及び普及啓発に係る情報共有と効果的な実施

沖縄県内で地域住民、NPO等民間団体、市町村等により実施されてきた海岸漂着物対策に係る環境教育と普及啓発に係る活動とその成果については、必ずしも県内で広く情報が共有され十分な有効活用がなされてきた訳ではない。したがって沖縄県では、積極的にその情報の収集、整理及び公開に努め、また、環境教育の拡充のため、環境教育の実施者と教育委員会等の行政機関との連携を図るほか、これら関係者の連携した取組を行うための意見交換の場を設けることとし、県内のそれぞれの地域において有効な環境教育及び普及啓発に係る施策について十分な検討を行い、必要な措置を講ずるものとする。

【参考】 令和4年度沖縄県海岸漂着物発生抑制対策検討・実施業務による指摘

- 一般県民向けオンラインワークショップ
 - ・本島南部、中部は官民の連携が取れていて民間団体も多い。北部は、役所の人員も少なく民間団体も少ない。連携の仕方などアイデアがないか。
 - ・参加者が先細りで若年層の参加が得られないのがどこでも課題。若年層は参加意識がないわけではなくマッチングできる仕組みがあれば参加する。
 - ・活動したい人と活動してほしい人とのマッチングについて、アイデアやコメント、経験、ノウハウなどあれば。
- 第2回海岸漂着物の発生抑制対策ワーキンググループ（WG）
 - ・本島北部では海ごみ対策について話し合う場が少ない。海ごみ座談会のような気軽に話せて、聞けるような場ができれば良い。ビーチクリーンと組み合わせるのも良い。これに県の発生抑制対策事業を組み入れるのがよいのではないか。
 - ・ワーキンググループメンバー以外の学生や漁業者、企業などの巻き込みが必要かと思う。ワーキンググループメンバーと交流を通じて企業の新しい取り組みに繋がれば大きな事だと思う。ワーキンググループメンバーが関わる座談会のような小規模なイベントが各地で持てたらよい。
 - ・中高生、大学生など若年層を加えたワーキンググループの実施。

4.2 対象地域と開催日時

令和4年度の沖縄県事業において、活動団体・個人の連携や情報共有・意見交換の場の確保が課題と指摘された沖縄本島北部、加えて、WG 構成員からの指摘により、近年は海岸清掃活動が活発になっているが、沖縄本島北部と同様に活動団体・個人の連携や情報共有・意見交換の場が少ないと考えられる宮古島地域を対象とした。

開催日時と会場は以下のとおりである。

●沖縄本島北部地域

開催日時：令和6年2月3日（土曜日）10:00～15:30

会場：もとぶ文化交流センター・研修室

●宮古島地域

開催日時：令和6年2月18日（日曜日）10:00～15:30

会場：未来創造センター（宮古島市中央公民館）スタジオ1

4.3 実施方法

4.3.1 実施体制

地域交流ワークショップの実施・運営体制は表 4.3-1 のとおりである。

表 4.3-1 地域交流ワークショップの実施・運営体制

実施項目		主な実施担当
①実施方針・基本計画	実施形態・規模・実施時期の検討と調整	沖縄県担当課・受託業者※
②参加者の募集	参加対象者の検討と募集(呼びかけ)	沖縄県担当課・受託業者・WG 構成員
③開催準備	開催内容の検討	第1回 WG 開催時及びオンライン打合せ
	関連資料作成、通信環境構築	受託業者
	ワークショップの詳細な内容検討、進行計画等の準備	受託業者・WG 構成員
④ワークショップの開催	議事進行	沖縄県担当課・受託業者
	議事進行への協力	WG 構成員
	司会・ファシリテーター	WG 構成員
	開催記録	受託業者

※受託業者：日本エヌ・ユー・エス(株)・(株)沖縄環境保全研究所 共同企業体

4.3.2 参加者の募集

県が組織する海岸漂着物の発生抑制対策ワーキンググループ（以下「ワーキンググループ」という。）の他、国や市町村等の行政機関に対しては沖縄県環境部環境整備課が参加を呼びかけた。また、ワーキンググループより県内外で海岸清掃活動や普及啓発・環境教育に取り組む企業や民間団体へ SNS 等を通じて参加を呼びかけた上で、インターネットから応募する方法とした。応募は事前申し込み制とし、応募者には申し込みフォームを利用した事前アンケートを実施した。

沖縄本島北部地域の交流ワークショップの開催案内（チラシ）を図 4.3-1 に、インターネットによる参加申込フォームを図 4.3-2 に、宮古島地域の開催案内（チラシ）を図 4.3-1 に、インターネットによる参加申込フォームを図 4.3-2 に示す。

参加無料

海ごみゆんたく！2024

北部から始めよう、海の未来を守る旅

地域交流ワークショップ

日時：2月3日(土) 10:00-15:30

場所：もとが文化交流センター・研修室2-2 (国頭郡本部町字大浜874-1)

沖縄県内で見られる漂着ごみは、その多くが海外由来であるものの、県内のもも含まれ、特に人口の多い地域では地元から発生したごみの割合が高くなる傾向にあります。

このワークショップは、昨年度までの沖縄県による漂着ごみ対策の中で、活動団体が少ない地域や県内の発生抑制対策に係る情報共有が充分でない地域では、今後の活動のための意見交換や情報共有の場が必要であるとの課題が整理されたことから実施するものです。

要・事前申込

申込：

Web申込フォームから
申込ください



申込フォームURL <https://forms.gle/p1TUG9C1hoDAFS26>

【お問い合わせ】沖縄県海岸漂着物発生抑制ワーキンググループ
日本エヌ・ユー・エス(株) 沖縄事業部

入室時は、検温、手指消毒、咳エチケットなど、感染症対策へのご協力をお願いします

主催：沖縄県環境部 環境整備課・沖縄県海岸漂着物発生抑制ワーキンググループ

運営：日本エヌ・ユー・エス(株)・(株)沖縄環境保全研究所共同企業体



プログラム

10:00 ● 第1部 県内における海ごみ問題への取組み紹介

- 開催あいさつ
- WSの開催説明
- アイスブレイク
- 自己紹介のワークショップ
- 休憩
- 県内の取組み紹介
 - ・ 沖縄県環境部の取組み紹介
 - ・ 沖縄県海岸漂着物発生抑制ワーキンググループの取組み紹介と
 - 構成員取組み紹介
- 質疑応答
- お昼休憩

13:00 ● 第2部 えんたくんで海ごみゆんたく！

- セッション1 過去-活動で大事にできたこと、工夫など
- セッション2 現在-現在感じている課題
- 休憩
- セッション3 未来-これからの展開、やってみたいこと
- 休憩

15:30 ● 全体会

自己紹介ワークショップ



えんたくんワークショップ



access

公共交通機関の利用にご協力ください

-  那覇/スターミナルから 2時間3分
-  名護/スターミナル バス26分 + 徒歩3分
-  名護/スターミナル 沖縄バス/琉球バス 「本部博物館前」下車



もとが文化交流センター・研修室2-2
本部町博物館隣り

<引用><https://note.com/g1ar12/n/1f1460a2ab>

図 4.3-1 沖縄本島北部地域交流ワークショップの開催案内(チラシ)

沖縄県 海ごみゆんたく！2024 参加申込フォーム

開催日：2024年2月3日（土）10時～15時30分
 会場：もとふ文化交流センター 研修室2-2
 （沖縄県国頭郡本部町字大浜874番地1）
 受付締め切り：2/2（金）
 お問い合わせ：沖縄県海岸漂着物発生抑制ワーキンググループ 事務局
 日本エヌ・ユー・エス(株) E-mail: [redacted]

nogami-d@janus.co.jp アカウントを切り替える

*** 必須の質問です ***

メールアドレス*

メールアドレス

昨年のワークショップでご要望が多かった、参加者リストの共有のため、掲載予定の項目について、参加者同士への公開OKの情報にチェックを入れてください。

チェックを入れた情報は参加者全員に一覧リストの形で共有されます。

当日ご参加の方のお名前
 団体名・活動名（代表者名）
 連絡先ご住所
 連絡先電話番号
 連絡先メールアドレス
 団体等のURL
 主な活動地域
 主な活動内容
 活動紹介
 情報のシェアは希望しない（→リストに載りません）

当日ご参加の方のお名前*

回答を入力

団体名・活動名と代表者名*
 （個人の方は「なし」で結構です）

回答を入力

連絡先ご住所（任意・公開OKの場合）

回答を入力

連絡先電話番号（任意・公開OKの場合）

回答を入力

連絡先メールアドレス（任意・公開OKの場合）

回答を入力

団体等のURL（任意・公開OKの場合）

回答を入力

主な活動地域*

沖縄本島（北部）
 沖縄本島（中部）
 沖縄本島（南部）
 本島周辺群島
 宮古群島
 八重山群島
 その他: _____

主な活動内容（複数回答可）*

ビーチクリーン
 海ごみに関する教育・啓発活動
 海以外でのごみ拾い活動
 ごみの発生を減らす活動
 その他: _____

活動紹介（内容、規模、活動年数など、50～200字程度）
 （任意・公開OKの場合）

回答を入力

このワークショップにどんなことを期待しますか？（複数回答可）*

沖縄県の海ごみの取り組みを知りたい
 沖縄県内の他団体の取り組みについて聞きたい
 沖縄県内の他団体と交流したい
 自分たちの課題を解決したい・アドバイスがほしい
 海ごみについての知識を得たい
 その他: _____

活動をする上で課題とされていることがあれば教えてください。（任意）

回答を入力

ご参加にあたってのご質問や、事務局に伝えておきたいことがあればお書きください。（任意）

回答を入力

図 4.3-2 沖縄本島北部地域ワークショップの参加申込フォーム

参加無料

海ごみゆんたく！2024

宮古から始めよう、海の未来を守る旅

地域交流ワークショップ

日時：2月18日(日) 10:00-15:30
場所：未来創造センター【宮古島市中央公民館】スタジオ1
(宮古島市平良字東仲宗根807番地)

沖縄県内で見られる漂着ごみは、その多くが海外由来であるものの、県内のもも含まれ、特に人口の多い地域では地元から発生したごみの割合が高くなる傾向にあります。

このワークショップは、昨年度までの沖縄県による漂着ごみ対策の中で、活動団体が少ない地域や県内の発生抑制対策に係る情報共有が充分でない地域では、今後の活動のための意見交換や情報共有の場が必要であるとの課題が整理されたことから実施するものです。

要・事前申込

申込：
**Web申込フォームから
 申込ください**

申込フォームURL <https://forms.gle/D8m5Z7TM5nDx2gLx7>

【お問い合わせ】沖縄県海岸漂着物発生抑制ワーキンググループ
運営：日本エヌ・ユー・エス(株)・(株)沖縄環境保全研究所共同企業体

入室時は、検温、手指消毒、咳エチケットなど、感染症対策へのご協力をお願いします

主催：沖縄県環境部 環境整備課・沖縄県海岸漂着物発生抑制ワーキンググループ
運営：日本エヌ・ユー・エス(株)・(株)沖縄環境保全研究所共同企業体

プログラム

10:00 ● 第1部 県内における海ごみ問題への取組み紹介

- 開催あいさつ
- WSの開催説明
- アイスブレイク
- 自己紹介のワークショップ
- 休憩
- 県内の取組み紹介
 - ・沖縄県環境部の取組み紹介
 - ・沖縄県海岸漂着物発生抑制ワーキンググループの取組み紹介と構成員取組み紹介
- 質疑応答
- お昼休憩

13:00 ● 第2部 えんたくんで海ごみゆんたく！

- セッション1 過去-活動で大事にできたこと、工夫など
- セッション2 現在-現在感じている課題
- 休憩
- セッション3 未来-これからの展開、やってみたいこと
- 休憩

15:30 ● 全体会

自己紹介ワークショップ

えんたくんワークショップ

<引用><https://note.com/giagr-id/n/ff11465de3ab>

access

公共交通機関の利用にご協力ください

バス利用

- 「大阪自店前」下車 徒歩2分
系統1/2/3/5(宮古沿岸バス)
系統4(宮古沿岸バス)
- 「宮古郵便局前」下車 徒歩4分
系統9(宮古沿岸バス)
池間一貫線(宮古島市生活バス)
- 宮古空港 車10分

未来創造センター
【宮古島市中央公民館】スタジオ1

図 4.3-3 宮古島地域交流ワークショップの開催案内(チラシ)



沖縄県 海ごみゆんたく！2024 参加申込フォーム

開催日：2024年2月18日（日）10時～15時30分
 会場：未来創造センター【宮古島市中央公民館】 スタジオ1
 （宮古島市平良字東仲宗根807番地）
 受付締め切り：2/15（木）
 お問合せ：沖縄県海岸清掃物発生抑制ワーキンググループ 事務局
 日本エヌ・ユー・エス(株) E-mail [redacted]

nogami-d@janus.co.jp アカウントを切り替える

* 必須の質問です

メールアドレス*

メールアドレス

昨年のワークショップでご要望が多かった、参加者リストの共有のため、掲載予定の項目について、参加者同士への公開OKの情報にチェックを入れてください。

チェックを入れた情報は参加者全員に一覧リストの形で共有されます。

- 当日ご参加の方のお名前
- 団体名・活動名（代表者名）
- 連絡先ご住所
- 連絡先電話番号
- 連絡先メールアドレス
- 団体等のURL
- 主な活動地域
- 主な活動内容
- 活動紹介
- 情報のシェアは希望しない（→リストに載りません）

当日ご参加の方のお名前*

回答を入力

団体名・活動名と代表者名*
 （個人の方は「なし」で結構です）

回答を入力

連絡先ご住所（任意・公開OKの場合）

回答を入力

連絡先電話番号（任意・公開OKの場合）

回答を入力

連絡先メールアドレス（任意・公開OKの場合）

回答を入力

団体等のURL（任意・公開OKの場合）

回答を入力

主な活動地域*

- 沖縄本島（北部）
- 沖縄本島（中部）
- 沖縄本島（南部）
- 本島周辺離島
- 宮古諸島
- 八重山諸島
- その他

主な活動内容（複数回答可）*

- ビーチクリーン
- 海ごみに関する教育・啓発活動
- 海以外でのごみ拾い活動
- ごみの発生を減らす活動
- その他

活動紹介（内容、規模、活動年数など、50～200字程度）
 （任意・公開OKの場合）

回答を入力

このワークショップにどんなことを期待しますか？（複数回答可）*

- 沖縄県海ごみ取り組みを知りたい
- 沖縄県内の他団体の取り組みについて聞きたい
- 沖縄県内の他団体と交流したい
- 自分たちの課題を解決したい・アドバイスがほしい
- 海ごみについての知識を得たい
- その他

活動をする上で課題と思っていることがあれば教えてください。（任意）

回答を入力

ご参加にあたってのご質問や、事務局に伝えておきたいことがあればお書きください。（任意）

回答を入力

図 4.3-4 宮古島地域ワークショップの参加申込フォーム

4.3.3 参加者

沖縄本島北部地域ワークショップの参加者一覧を表 4.3-2 に、宮古島地域ワークショップの参加者一覧を表 4.3-3 に示す。

表 4.3-2 沖縄本島北部地域交流ワークショップの参加者一覧

分類	機関、団体名
主催者	沖縄県 環境部 環境整備課
一般公募	<ul style="list-style-type: none"> ・ハイサイクリーン隊（一般社団法人地球となかよし） ・一般社団法人しまぬわ / 沖縄沿海保全同友会 (ocpa) ・久米島ビーチクリーン ・しかたに自然案内 ・島々海舎 ・個人参加（1名）
沖縄県海岸漂着物の発生抑制対策ワーキンググループ	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県立芸術大学 ・しかたに自然案内 ・特定非営利活動法人久米島ホテルの会 ・一般社団法人沖縄リサイクル運動市民の会
運営	日本エヌ・ユー・エス(株)・(株)沖縄環境保全研究所 共同企業体

表 4.3-3 宮古島地域交流ワークショップの参加者一覧

分類	機関、団体名
主催者	沖縄県 環境部 環境整備課
一般公募	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミゼロネットワーク（仮）宮古は日ごとキレイになっている！ ・一般社団法人 NEREIS ・宮古の海をキレイにし隊（2名） ・渡口の浜 つむかぎ会
沖縄県海岸漂着物の発生抑制対策ワーキンググループ	<ul style="list-style-type: none"> ・石垣島アウトフィッターユニオン ・一般社団法人西表島財団、NPO 法人西表島エコツーリズム協会 ・Litterati Japan、株式会社 マナティ ・特定非営利活動法人宮古島海の環境ネットワーク ・公益財団法人沖縄こどもの国 ・わくわくサンゴ石垣島
運営	日本エヌ・ユー・エス(株)・(株)沖縄環境保全研究所 共同企業体

4.3.4 実施内容

(1) ワークショップ

沖縄本島北部地域交流ワークショップ及び宮古島地域交流ワークショップの開催内容を表 4.3-4 に示す。

表 4.3-4 地域交流ワークショップの開催内容

開催時間	開催内容・開催方法	発表者/ ファシリテーター 総司会：JV
<第1部> 沖縄県のおごみ問題取り組み状況		
10:00~10:05	沖縄県 開催あいさつ	沖縄県環境部環境整備課
10:05~10:15	ワークショップの開催説明	事務局 (沖縄県環境部環境整備課)
10:15~10:20	アイスブレイク	北部：ハイサイクリーン隊 宮古：WG 構成員⑨ (宮古島海 の環境ネットワーク)
10:20~10:50	自己紹介ワークショップ	北部：WG 構成員④ (しかたに自然案内) 宮古：WG 構成員⑨ (宮古島海 の環境ネットワーク)
10:50~11:00	休憩	
沖縄県の取り組み紹介		
11:00~11:05	沖縄県の取り組み紹介 (資料補足説明)	沖縄県環境部環境整備課
11:05~11:35	<p>沖縄県海岸漂着物発生抑制ワーキンググループの取り組み紹介 (資料補足) と構成員取り組み紹介</p> <p>WGの取組紹介：JV 7分</p> <p>【北部】</p> <p>OWG 構成員⑤ (久米島ホテルの会)：離島の活動 7分</p> <p>OWG 構成員⑦ (沖縄リサイクル運動市民の会)：陸域のごみ 7分</p> <p>OWG 構成員④ (しかたに自然案内)：普及啓発 7分</p> <p>【宮古】</p> <p>OWG 構成員⑪ (わくわくサンゴ石垣島)：石垣島のビーチクリ ーンの拡がり 7分</p> <p>OWG 構成員⑫ (西表島財団)：西表島の取組 7分</p> <p>OWG 構成員⑧ (マナティ)：マナティの取組 7分</p>	
11:35~11:45	質疑応答	沖縄県環境部環境整備課 WG 構成員
11:45~13:00	お昼休憩 (第2部会場セッティング)	

＜第2部＞ えんたくんで海ごみゆんたく！		
13:00～13:10	第2部の進行説明	北部：WG 構成員④ （しかたに自然案内） 宮古：WG 構成員⑨（宮古島海 の環境ネットワーク）
13:10～13:30	セッション1 過去 -活動で大事にしてきたこと、工夫など	
13:30～13:35	グループ入れ替え	
13:35～13:55	セッション2：現在 -現在感じている課題	
13:55～14:00	グループ入れ替え	
14:00～14:05	休憩	
14:05～14:25	セッション3：未来 - これからの展開、やってみたいこと	
14:25～14:35	各テーブルホストからの報告 ※1人2～3分程度で	
14:35～14:45	休憩	
14:45～15:10	全体会：全体会に向けて共有したい情報や質疑、本日の感想等	
15:10～15:15	閉会あいさつ	沖縄県環境部環境整備課
15:15～15:30	アンケート記入、交流フリータイム	
15:30	閉会	

JV:受託業者（日本エヌ・ユー・エス(株)・(株)沖縄環境保全研究所 共同企業体)

(2) アンケート

ワークショップの開催後、参加者を対象にアンケート調査を実施した。アンケートは、インターネットにより実施し、ワークショップ参加者に Google Form を利用して行った。アンケートの設問内容は、ワークショップ全体への評価や良かった点、沖縄県の海ごみ対策へのご意見やご要望など、6問とした（図 4.3-5）。

もとぶ

「海ごみゆんたく！2024 北部から始めよう、海の未来を守る旅」アンケート

今後の普及啓発活動に活用するため、ご協力をお願いいたします。

Q1: 本日のワークショップ全体への評価を教えてください。
 とても良かった ・ 良かった ・ ふつう ・ あまり良くなかった ・ 良くなかった

Q2: 本日のイベントに参加して下さった理由を教えてください。
 海岸漂着物に興味があった / 環境問題に興味があった / ワークショップに興味があった / 知人の勧め
 その他()

Q3 本日のワークショップについて、当てはまるものに○をつけて下さい。

項 目	そう思う	とても思う	そう思う	でもない	どちらか	思わない	そう	思わない	全くそう
1. 沖縄県の取組について知ることができてよかった									
2. 沖縄県以外の団体の活動内容を知ることができてよかった									
3. 同じ地域の方々と交流の場を持つことができてよかった									
4. 自分たちの活動等の課題解決のヒントやアドバイスを得られてよかった									
5. 自身の活動に取り入れてみたいと思うような気づきがあった									

→1～5の質問でそのように回答した理由があれば教えてください。
 ()

Q4 : 特に良かったと思う内容や理由があればお書きください。(任意)
 ()

Q5 海ごみに関し、もっと深く／広く知りたいと思う内容があれば○をつけてください。(複数選択可)
 沖縄県の海岸漂着物対策について ・ 県内他地域の海岸漂着物対策について ・ 近隣諸国の取組について ・ 世界各国の取組について ・ 海ごみ回収のための工夫やアイデア ・ プラスチックの削減 ・ 行政との連携 ・ その他 ()

Q6: 沖縄県の海ごみ対策について、ご意見やご要望があればお書きください。今後の参考にさせていただきます。(任意)
 ()

Q7: 本ワークショップの形や内容、テーマ、事務局対応、進行などについて、ご意見やご要望、事務局に伝えたいこと、改善点があればお書きください。今後の参考にさせていただきます。(任意)
 ()

Q8: 今後の海ごみに関するセミナーやイベントについてのご要望、やってみたいことがございましたら、ご自由にお書きください。
 ()

ご協力ありがとうございました。

図 4.3-5 参加者アンケート

4.4 実施結果（本島北部地域交流ワークショップ）

4.4.1 アイスブレイク

ハイサイクリーン隊（一般社団法人地球となかよし）代表者より、団体の活動状況や展望、このワークショップで意見交換したい内容などをお話しいただいた。



図 4.4-1 アイスブレイクの実施状況

4.4.2 自己紹介ワークショップ

自己紹介ワークショップでは、4枚のA4用紙にそれぞれ①名前・団体名・活動名・活動歴、②活動地域・主な活動内容、③活動をして困っていること、④これからやってみたいこと、を参加者に記入してもらい、順番に発表いただいた。ファシリテーターは、しかたに自然案内代表者が務めた。

自己紹介ワークショップの実施状況は図 4.4-2 のとおりである。



図 4.4-2 自己紹介ワークショップの実施状況

4.4.3 沖縄県の取組紹介

取組紹介では、沖縄県 環境部 環境整備課より沖縄県の取組、受託業者よりWGの取組紹介、WG構成員3名より所属団体の取組紹介を行った。取組の概要を表4.4-1～表4.4-4に示す。

表 4.4-1 「沖縄県の海岸漂着物対策について」
(沖縄県環境部環境整備課) の説明概要

タイトル	沖縄県の海岸漂着物対策について
表紙	
発表者	沖縄県 環境部 環境整備課
内容	<p>沖縄県の主な取り組みを紹介</p> <p>①海岸漂着物の回収・処理：2011～2022にかけて県、市町村にて実施6329トン回収。</p> <p>②漂着ごみ現況把握：2010～2022にかけて県内23～31海岸を対象とし定期モニタリング調査を実施。年2千から4千トン漂着。PETは周辺国が多い。本島中南部の人口の多いエリアでは地元で排出されたごみが多い。沖縄県のおもてなしごみに含まれるプラスチック類が全量の約6割を占める。マイクロプラスチック調査も実施。</p> <p>③研究と対策検討：海岸清掃マニュアルや漂着状況の解説資料を作成。再資源化や有害物質の研究を実施。ごみの多い海岸と少ない海岸で、有害物質溶出量、生物中のマイクロプラスチック数、生物中の有害物質濃度を比較すると、全ての項目でごみ量の多い海岸で有害物質が多いという結果が得られた。結果をもとに学識経験者等との会議を開催。4つの推奨事項が導かれた。1. 貴重な自然を有する海岸の回収、2. 漂着量の多い時期に回収を推進する、3. 発泡スチロールを優先して回収する、4. 調査結果を正しく伝え漂着ごみ回収の意義を理解してもらう。</p> <p>④発生抑制：2010～2023にかけて経験豊富な人員でワーキンググループを運営。普及啓発教材の作成、教育の推進。東アジア地域漂着ごみ対策交流事業、公開ワークショップを開催。今後の対応方針として、国の補助金を活用し回収・処理を継続していく、海外交流事業を継続する、継続して定期的に調査を実施し発生抑制対策と普及啓発に取り組む。</p>

表 4.4-2 「海岸漂着物の発生抑制対策ワーキンググループ 取組紹介」
(日本エヌ・ユー・エス株式会社) の説明概要

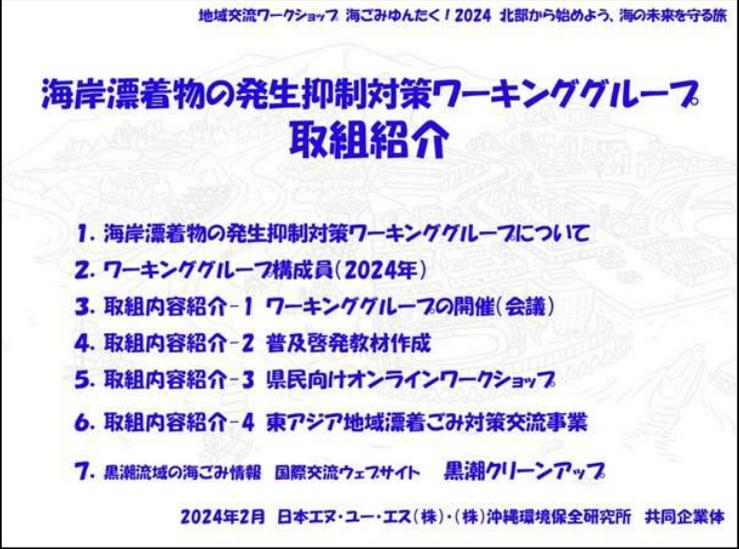
タイトル	海岸漂着物の発生抑制対策ワーキンググループ 取組紹介
表紙	
発表者	日本エヌ・ユー・エス株式会社
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・WG 立上げの経緯、背景の説明 ・WG 構成員、開催状況の説明 ・過年度のWGの実施内容から以下の取組内容を説明 <ul style="list-style-type: none"> ①How To ビーチクリーン（チラシ作成ツール） 海岸清掃方法や分別ルールを説明するためのチラシを作成できるツール。必要なパーツが揃っており、それらを組み合わせてチラシを作成する。 ②2020年作成のイラスト素材集 環境教育・普及啓発に使用する教材、ポスター、チラシなどに簡単に張り込めるイラスト素材集であり、沖縄の風景・ごみと生物・人々の活動、ごみのデータ表作成に使えるアイコン、セリフを書く際の吹き出しなど全部で190種類のイラストを用意。 ③2021年度より実施している県民向けオンラインワークショップ 海洋ごみ対策に関して、自治体や民間団体など参加者間の交流、活動の工夫、課題の共有、情報交換などを目的とした一般県民向けオンラインワークショップを開催。 ④2014年度より実施している東アジア地域漂着ごみ対策交流事業 海洋ごみの発生抑制対策には、普及啓発・環境教育、人材育成、近隣諸国との連携が必要であることから、県は2014～2022年度にかけて、台湾や中国の行政及び民間団体と連携し「東アジア地域漂着ごみ対策交流事業」を実施 ⑤黒潮流域の海ごみ情報 国際交流ウェブサイト 黒潮クリーンアップ HP 「黒潮クリーンアップ」は、黒潮流域の海ごみ問題を伝えるためのウェブサイト。黒潮流域の海ごみを減らすために、沖縄の海ごみの状況、クリーンアップ活動、黒潮流域の国際交流活動、普段の生活の中からプラスチックごみを減らすアイデアなどを掲載している。

表 4.4-3 「NPO 法人久米島ホテルの会の SDG s 活動」
 (NPO 法人久米島ホテルの会) の説明概要

タイトル	NPO ホテルの会の SDG s 活動 ～陸域の赤土と不法投棄ゴミの回収で、海の環境も守る～
表紙	
発表者	特定非営利活動法人 久米島ホテルの会 事務局長
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・久米島ホテル館の環境省による紹介動画（ホテル館、野外学習、2007年7名で結成し現在33名が活動参加、ホタレンジャーの活動、久米島ホテルの再生、2015年よりSDGs教育、ビオトープ体験学習） ・赤土対策、不法投棄ごみの清掃活動を実施している。 ・海岸清掃活動は分別を大切にしている（日本エヌ・ユー・エス（株）と連携）。 ・小学校全6校で、5年生を対象とした海ごみ環境教育を実施（日本エヌ・ユー・エス（株）と連携）。 ・家庭ごみの分別に係る環境教育を実施（東海大学人間環境学部研究科の学生と連携）。 ・沖縄県南部土木事務所と環境省による海岸漂着物の回収事業について、受託業者とこれに参加している久米島高校野球部の生徒と連携し、ハマシタンなど海岸生態系、地域の自然環境に配慮した回収方法（重機の使用の工夫など）を実践。 ・観光客や修学旅行向けの赤土対策や海岸清掃の体験プログラムを実施（島外の方を対象とした普及啓発）。辺土名小学校の離島体験プログラムによる環境学習を実施。 ・渡名喜小中学校との交流を実施（海の環境にも関係している森の生態系とふれ合う環境学習）。

表 4.4-4 「プラスチックごみ問題と沖縄リサイクル運動市民の会の活動」
 ((一社)沖縄リサイクル運動市民の会の活動)の説明概要

タイトル	プラスチックごみ問題と(一社)沖縄リサイクル運動市民の会の活動について
説明状況	
発表者	(一社)沖縄リサイクル運動市民の会 環境プロジェクト担当
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトルの日本の年間出荷数 241 億本、世界の年間出荷数 6000 億本を超えていると考えられる。世界で1分間に100万本生産、コカ・コーラだけで年間1000億本生産されている。世界で一番海を汚している企業はコカ・コーラと指摘する団体もある。 ・プラスチック全体では、世界で年間3億6千7百万トン製造されている。今でも増え続けている。年間800~1000万トンが海に流出し続けている(これは全体の2.1%、ジャンボジェット機5万機分)。 ・日本ではプラスチックごみの多くは分別回収されている。世界で見ると、日本、北米、ヨーロッパでは回収率約90%、南アジアとアフリカのサハラ以南では50%に満たない(多くは山などに投棄されている)。 ・プラスチックごみが十分に回収されていない国・地域にもコンビニエンスストアのような使い捨てプラスチックを扱う店舗が増えているが、ごみの回収システムがない。 ・マレーシアのボルネオ島の水上生活者(水上集落)による使い捨てプラスチック製品のポイ捨ての状況を動画で紹介。水上生活者(生活習慣にごみ箱が無い)のエリアでは、底1m程度がごみの層になっている。 ・世界一汚い川と呼ばれるインドネシアの川の状況を紹介。 ・30年前の沖縄の離島の状況を紹介。ごみが散乱していた。日本中が同じ状況だった。 ・沖縄本島南部の河川のごみ調査結果を紹介(平成26年度沖縄県事業により日本エヌ・ユー・エス(株)が実施)。海外由来のごみではなく、地域のごみが主体となっている。 ・プラスチックごみ問題は、捨ただけでは解決しない。使う側のライフスタイルの見直しが必要。日本も使い捨て文化を世界に広めている(プラスチックを利用することによる便利な生活の価値観を広げている)。これを見直し、使い捨てプラスチック製品の利用を減らす生活(取組)が必要であり、これには行政、製造メーカー、小売店などの協力も必要である。特に製造メーカーが責任を負うことが大切ではないか。 ・(一社)沖縄リサイクル運動市民の会が長年実施している「買い物ゲーム」の紹介。これはプラスチックだけでなく身の回りの使い捨て文化を見直すための環境教育プログラム。沖縄県内だけでなく海外でも展開。マレーシアでの実施状況を説明。

表 4.4-5 「海ごみの環境教育プログラム作り」
 (しかたに自然案内) の説明概要

タイトル	沖縄県内の活動紹介
表紙	
発表者	しかたに自然案内 代表
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・主に学校での環境教育を実施している。他にはイベントでの親子参加による環境教育。 ・フィールドプログラム（体験重視）と室内プログラム（フィールドに出られない場合、座学重視）を実施している。他には小学校低学年向けの室内でも体験できるプログラム。 【フィールドプログラム】 ・フィールドプログラムでは「浜辺の漂着物探し」を多く実施している。ごみに限らず漂着したごみや自然物を対象として、それぞれの漂着した経緯などを考えるプログラム。他にはマイクロプラスチックの調査体験を通じた見えないごみの見える化と海岸に存在するマイクロプラスチック量を学ぶの学習を実施。 ・ビーチクリーン活動にペットボトルの製造国分析を組合わせた活動を実施。 ・教育学習としては、第一段階としては興味を持ってもらう、第二段階としては学びにつなげる、第三段階としては暮らしや社会への見直しについて意見交換するということまでたどり着ければ良いのではないかと考えている。 ・ビーチクリーンは、ただ拾うだけで終わってしまっは環境教育にならない点を意識して活動している。 【室内プログラム】 ・こちら予め用意した様々な種類（人工物や自然物）の海岸漂着物に触れたり観察してもらい、これらの漂着物について考えてもらう。加えて海洋ごみ問題に係るスライドの説明を組合わせている。 ・最近では「海ごみ世界地図」小学校低学年から高学年まで幅広い生徒を対象に実施できるプログラムを実施している。これは世界地図を舞台に海流とごみの動きを学ぶプログラム。 ・海ごみパネルアートクイズを実施。15枚のパネルに15問のクイズが設定されており、これを巡ることにより海ごみ問題を考えるプログラム。この前段に海洋ごみ問題に係るスライドの説明を組合わせている。 ・海ごみ問題に取り組んでいる人の多くが挫折してしまう（終わりが無い点）課題に対応する環境学習を実施。今の取組が無意味ではなく、ごみの削減に繋がっていく点を理解する。

4.4.4 ワークショップ えんたくんで海ごみゆんたく！

(1) 実施状況

「えんたくん」は直径が1メートル程の丸いダンボールの板で、人々が円座になってひざの上にえんたくんを乗せ、ワールドカフェ形式で対話をするためのツールである。

このワークショップでは、えんたくんを使用し1グループ4～5名によるグループセッションを実施した。

グループセッションは3テーマを用意し、各テーマ終了後にグループホスト以外の参加者の入れ替えを行った。用意したテーマと進行内容は以下のとおりである。

- ・セッション1〈過去〉活動で大切にしてきたこと、工夫など（20分間）
 - ・ ーグループ入れ替えー
- ・セッション2〈現在〉現在感じている課題（20分間）
 - ・ ーグループ入れ替えー
- ・セッション3〈未来〉これからの展開、やってみたいこと（20分間）
- ・各テーブルホストからの報告

ファシリテーターは、しかたに自然案内代表者が務めた。

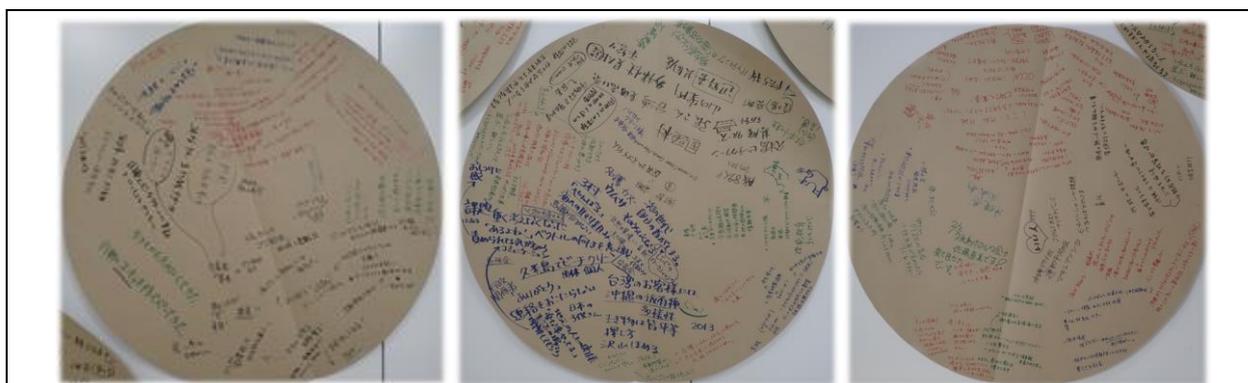
えんたくんで海ごみゆんたく！の実施状況を図 4.4-3 に示す。



図 4.4-3 えんたくんで海ごみゆんたく！の実施状況

(2) えんたくんの書き込み状況

えんたくんで海ごみゆんたく！は3テーブルで実施したが、その書き込み状況は図4.4-4のとおりである。



(書き込みの一部)

- ・ 離島では、生産者をボイコット／選べない
- ・ だれも行かないビーチは誰がやるの？
- ・ まずやってみる→維持するって大事
- ・ ボランティア責任が見えるプラットフォーム
- ・ 根拠がないと続けられない
- ・ 市町村が活動のハードルを上げている
- ・ 地元の人とのコミュニケーション
- ・ 「ありがとう」連絡を怠らない
- ・ 環境教育 子ども世代
- ・ 役場に感謝する
- ・ 有害物質情報→食生活にも影響→活動のモチベーションになる
- ・ 大人の世代への教育：子供・孫→現世代に
- ・ アプローチの仕方（マイバックとか）
- ・ 内地の人の活動→内地の人達との関係
- ・ 子どもから大人へのワークショップ
- ・ 役場とのコミュニケーションを怠らない
- ・ 台湾の人は意識高い
- ・ 海洋保全：強要してない→伝えたい人に伝えたい
- ・ 相手のことを理解することは大切
- ・ 沖縄はリサイクル率が低い→ゴミを減らす
- ・ 同じメンバー、新しい交流がない
- ・ 同じ活動でなくてもゴールは同じ

図 4.4-4 えんたくんの書き込み状況

(3)各テーブルホストからの報告

えんたくん3テーブルの各テーブルホストからの報告の概要は表 4.4-6 に示すとおりである。

表 4.4-6 各テーブルホストからの報告概要

<p>テーブル 1</p>	<p><大事にしてきたこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政と関わりながら海洋ごみ対策を実施している立場では、行政のサポートが重要。 <p><現在の課題とこれから></p> <ul style="list-style-type: none"> ・長く活動を続けていくには、多くの人に活動を伝えていく事も必要。 ・同じメンバーで長く続けていくと、拡がりのなさが課題となる。 ・活動団体の横のつながりの無い地域では、せっかくビーチクリーンを計画しても対象にする海岸の清掃が既に終わった後だったりすることもある。 ・陸から川などを伝ってごみが海に流れ出ている。インフラを改善して海にごみが流出しない工夫が必要。 ・製品を製造する企業が使ってもごみにならない製品の開発をするべき。 ・このようなワークショップに参加して熱心に活動する団体や個人をサポートするシステムを行政側につくってほしい。行政のシステムに民間が合わせるだけでなく、その逆の取組も必要なのでは。
<p>テーブル 2</p>	<p><大事にしてきたこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係するステークホルダーとのコミュニケーションが大切（連絡や感謝の気持ちを伝えるなど）。 ・長く活動している人は、世の中が変わっていく様をみているため、必ず変えていけると考える（日々の活動は実っていく）。 <p><現在の課題とこれから></p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題は常にあるが、考えすぎないようにする。このワークショップのような場で、経験豊かな先輩達からアドバイスをもらえる機会があれば続けていける。 ・意識はあるが動かない人に対しては、無理矢理動くように仕向けたりせず、動きやすいような仕掛け、工夫を考えることも必要（例えばエコバッグを持つ習慣のないお年寄りに孫がエコバッグをプレゼントするとか）。
<p>テーブル 3</p>	<p><現在の課題とこれから></p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業や行政とつながりながら活動するのは誰にでも簡単にできることではない。 ・ごみがあるからビーチクリーンをするのだが、更にごみがあることによる影響を多くの人が知ることで、活動が拡がり、またビーチクリーンを続ける意欲になっていく。 ・ボランティア活動に関する情報が見えるプラットフォームがあれば、活動がスムーズになるのでは。 ・市町村によるボランティア清掃活動の手続きなどが、ボランティア清掃のハードルを上げている場合がある（申込方法や報告など）。難しい手続きが必要になると、活動を続けることが難しくなる。活動がし易いシステムが必要。

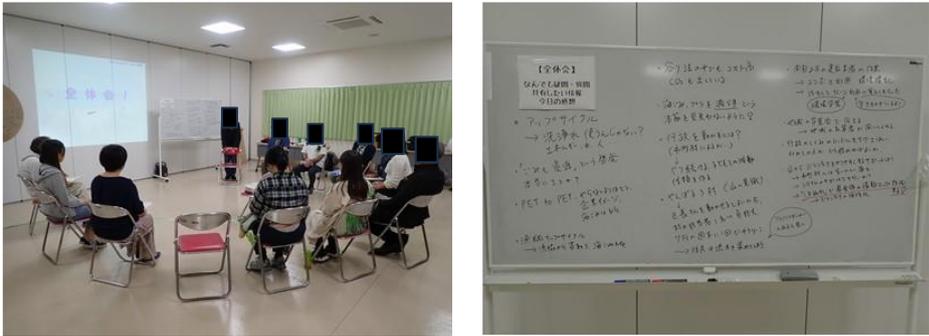
4.4.5 全体会（全体討議）

ワークショップの最後に全体会（全体討議）を行った。全体討議では、疑問・質問共有したい情報、このワークショップの感想など自由な発言を参加者に求めた。

ファシリテーターは、しかたに自然案内代表者が務めた。

全体会の実施状況と発言内容は表 4.4-7 に示すとおりである。

表 4.4-7 全体会（全体討議）の実施状況

<p>実施状況</p>	
<p>発言内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アップサイクル、ごみの資源化はエコだろうか？ <ul style="list-style-type: none"> →やらないよりはよい、企業イメージの向上につなげている →コスト、CO2 排出の課題がある →海ごみ、プラを減らす本筋を忘れてはいけない ・行政を動かすには？（市町村によるが） <ul style="list-style-type: none"> →活動を続ける、子どもの活動 →信頼関係を作る →区長を動かす、役場担当者の負担を考慮する ・行政から海ごみ回収を受託している建設業者の重機使用による環境影響の問題がある。 ・ボランティア活動をやりやすくするサポート <ul style="list-style-type: none"> →清掃活動を行う際の行政手続きのハードルを下げしてほしい。初めて活動する人にわかりやすくする →ボランティア活動のサポートをするシステム →海ごみ情報マップを作成してボランティアの活性化につなげたい <p style="text-align: right;">など</p>

4.4.6 参加者アンケート

参加者アンケートの結果を図 4.4-5～図 4.4-11 に整理した。

図 4.4-5 (Q 1) のワークショップへの評価では、「とても良かった」、「良かった」との回答となり、「あまり良くなかった」、「良くなかった」の回答は無かったことから、参加者にとって有意義であったと考えられる。

図 4.4-6 (Q 2) のワークショップの感想(選択式)では、「沖縄県内の他団体の活動内容を知ることができた」、「自身の活動に取り入れてみたい気づきがあった」、「同じ地域の方々と交流の場を持てた」に「とてもそう思う」と回答した参加者が多く、図 4.4-6 (Q 3) (記述式)にも同様の回答が多かった。

以上の結果から、参加者の感想として、他団体・他地域の活動している人とのつながりの場、情報交換の場について、良かった、有意義であったとの感想が多かった。

図 4.4-8 (Q 4) の海ごみに関して知りたい内容(選択と記述式)では、「海ごみ回収のための工夫やアイデア」が最も多かった。次いで「プラスチック削減」、「行政との連携」との回答が多かった。

図 4.4-9 (Q 5) の沖縄県の海ごみ対策への意見や要望(記述式)では、海洋ごみの回収において「もっと回収したい」、「行政の手を貸してほしい」といった意見が見られた。

図 4.4-10 (Q 6) 開催方法等に関する感想では、「えんたくんを用いた手法が面白かった」という意見のほかに、学校関係者や行政など幅広い参加を求める回答が見られた。

図 4.4-11 (Q 7) のワークショップへの意見や要望(記述式)では、子供達が参加できる時期での開催とすること、県と一緒に楽しいイベントを開催したい、といった意見が得られた。

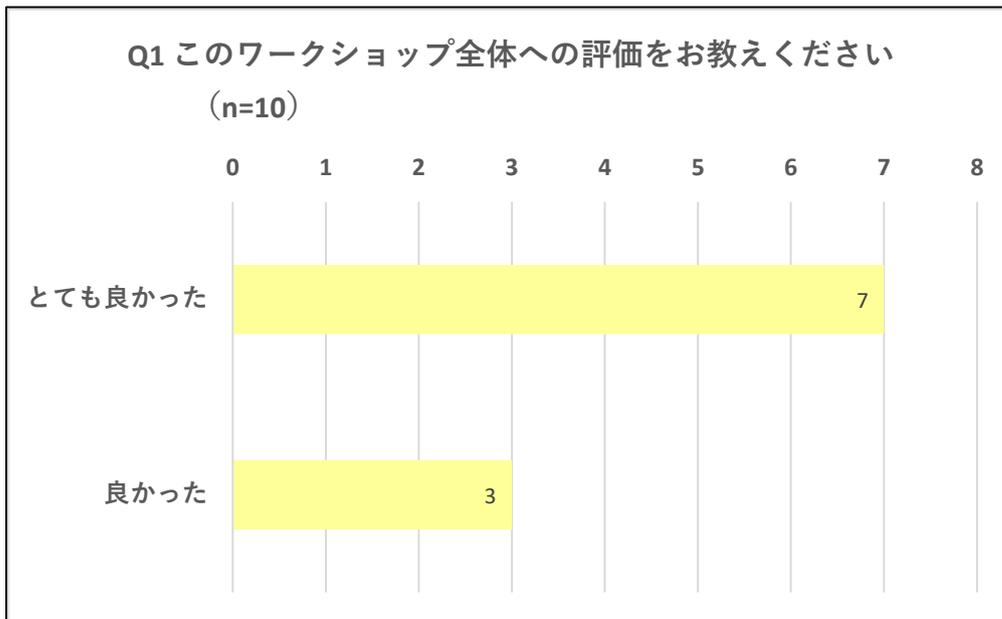
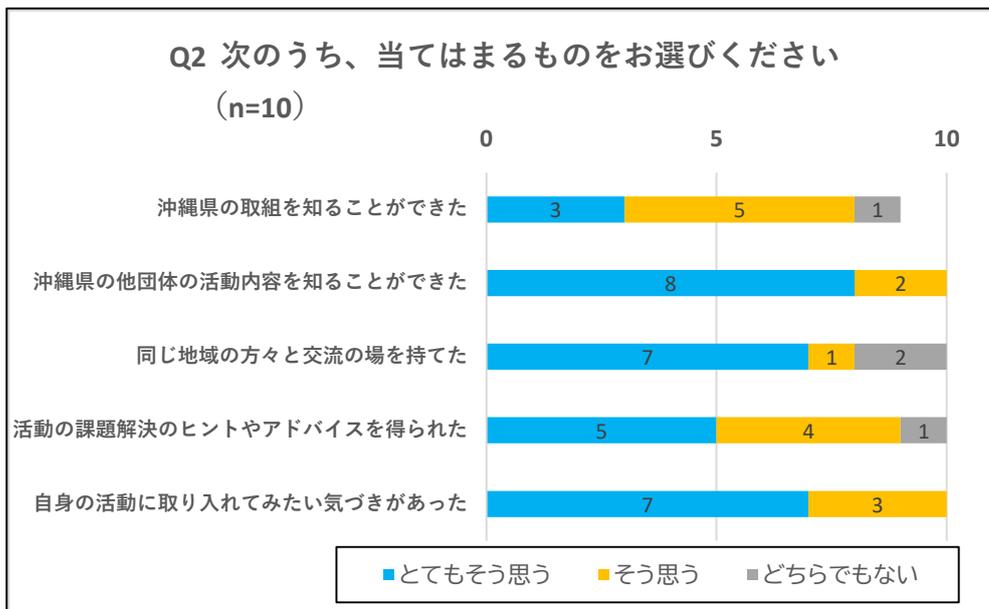


図 4.4-5 ワークショップへの評価（選択式） 回答結果



(理由)

- ・ 離島にいるため、ワークショップに参加する事がない。顔を合わせて話げできたのが良かった。
- ・ 初めて他団体の人と交流できて刺激になった。
- ・ いろいろな立場・考え方があり、みんな同じ方向を見ている。
- ・ 久米島では上手く連携が取れているなど、ヒントが沢山得られた！

図 4.4-6 ワークショップの感想（選択式） 回答結果

Q3 特によかったと思う内容と理由をお書きください（任意）

- ・みなさんと交流できて良かった。
- ・様々な活動をしている方を知れてとても有意義でした。
- ・新しい方と会えたこと。
- ・他の団体とのつながりができた。
- ・沢山の気づきとアドバイスをいただけて、今後の活動にすぐに活かせることもあった。
- ・少人数で、全員とじっくり話せたこと。
- ・全部良かった。本部まで来てよかった。

図 4.4-7 ワークショップの良かった内容とその理由（記述式） 回答結果

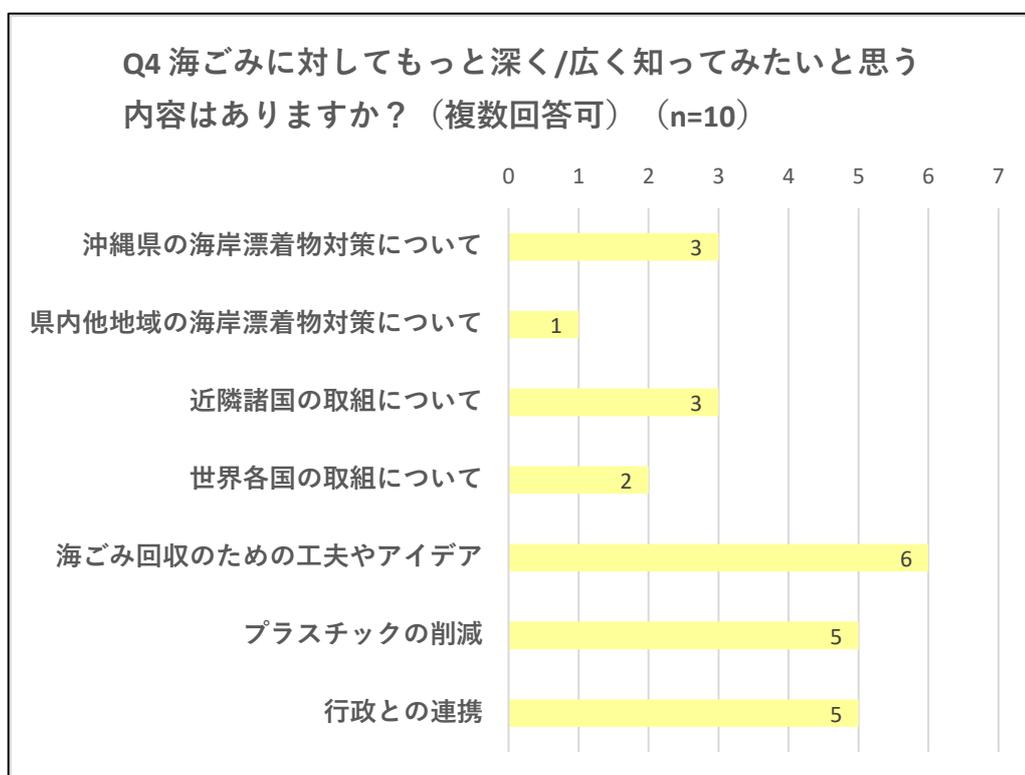


図 4.4-8 海ごみに関して知りたい内容（選択と記述式） 回答結果

Q5 沖縄県の海ごみ対策に対して、意見や要望があればご記入ください（任意）
<ul style="list-style-type: none"> ・海上のゴミを船でガサーっと集めたい。 ・環東シナ海の交流。 ・県庁内ではペットボトル、使い捨ての物を販売しないなど、使い捨てごみを減らすという県民への「メッセージ」を示してほしい。 ・組織化、協議会、担当者など決めてほしい。意見交換した後に個人の努力に頼るのはつらい。資金の確保など、申請書作成、発信者など、専門職給料がもらえる体制を求める。 ・もっと前に出てきてほしい！力を貸してほしい！

図 4.4-9 沖縄県の海ごみ対策への意見や要望（記述式） 回答結果

Q6 事務局への意見や要望があればご記入ください（任意）
<ul style="list-style-type: none"> ・えんたくでのゆんたくが面白かった。 ・当日島に帰るので、時間が心配。 ・各市町村でワークショップをしても良い。 ・行政の方や学校の先生に参加してほしい。環境教育の講師をもっと人材育成してほしい。 ・海洋保全活動をまだしていない、興味あるだけの人も参加できたら良い！

図 4.4-10 開催方法等に関する意見や要望（記述式） 回答結果

Q7 海ごみに関するセミナーやイベントについてのご要望（任意）
<ul style="list-style-type: none"> ・盆休みなど、子どもも参加しやすい時期にも行ってほしい。 ・県と一緒に環境系の楽しい啓発イベントをしたい。

図 4.4-11 ワークショップへの意見や要望（記述式） 回答結果

4.5 実施結果（宮古島地域交流ワークショップ）

4.5.1 アイスブレイク

公益財団法人沖縄こどもの国職員による指きき体操を参加者全員で実施した。

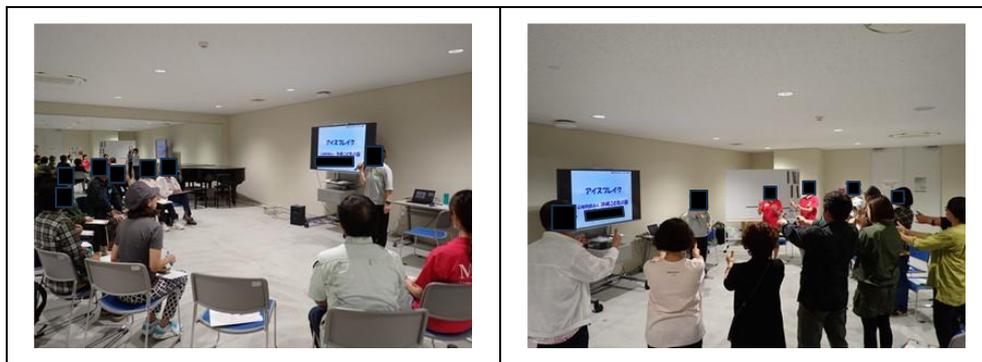


図 4.5-1 アイスブレイクの実施状況

4.5.2 自己紹介ワークショップ

自己紹介ワークショップでは、4枚のA4用紙にそれぞれ①名前・団体名・活動名・活動歴、②活動地域・主な活動内容、③活動をして困っていること、④これからやってみたいこと、を参加者に記入してもらい、順番に発表いただいた。ファシリテーターは、宮古島 海の環境ネットワーク 事務局長が務めた。

自己紹介ワークショップの実施状況は図 4.5-2 のとおりである。

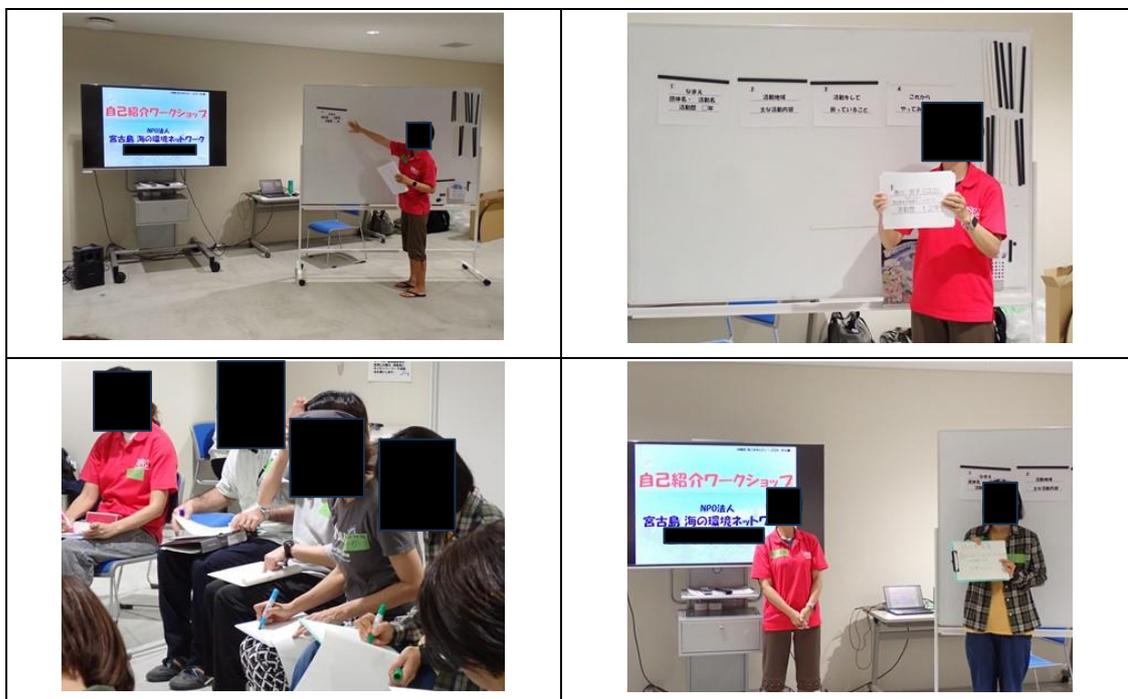


図 4.5-2 自己紹介ワークショップの実施状況

4.5.3 沖縄県の取組紹介

取組紹介では、沖縄県 環境部 環境整備課より沖縄県の取組、受託業者よりWGの取組紹介、WG 構成員 3 名より所属団体の取組紹介を行った。取組の概要を表 4.5-1～表 4.4-4 表 4.5-5 に示す。

表 4.5-1 「沖縄県の海岸漂着物対策について」
(沖縄県環境部環境整備課) の説明概要

タイトル	沖縄県の海岸漂着物対策について
表紙	
発表者	沖縄県 環境部 環境整備課
内容	<p>沖縄県の主な取り組みを紹介</p> <p>①海岸漂着物の回収・処理：2011～2022 にかけて県、市町村にて実施 6329 トン回収。</p> <p>②漂着ごみ現況把握：2010～2022 にかけて県内 23～31 海岸を対象とし定期モニタリング調査を実施。年 2 千から 4 千トン漂着。PET は周辺国が多い。本島中南部の人口の多いエリアでは地元で排出されたごみが多い。沖縄県のごみに含まれるプラスチック類が全量の約 6 割を占める。マイクロプラスチック調査も実施。</p> <p>③研究と対策検討：海岸清掃マニュアルや漂着状況の解説資料を作成。再資源化や有害物質の研究を実施。ごみの多い海岸と少ない海岸で、有害物質溶出量、生物中のマイクロプラスチック数、生物中の有害物質濃度を比較すると、全ての項目でごみ量の多い海岸で有害物質が多いという結果が得られた。結果をもとに学識経験者等との会議を開催。4 つの推奨事項が導かれた。1. 貴重な自然を有する海岸の回収、2. 漂着量の多い時期に回収を推進する、3. 発泡スチロールを優先して回収する、4. 調査結果を正しく伝え漂着ごみ回収の意義を理解してもらう。</p> <p>④発生抑制：2010～2023 にかけて経験豊富な人員でワーキンググループを運営。普及啓発教材の作成、教育の推進。東アジア地域漂着ごみ対策交流事業、公開ワークショップを開催。今後の対応方針として、国の補助金を活用し回収・処理を継続していく、海外交流事業を継続する、継続して定期的に調査を実施し発生抑制対策と普及啓発に取り組む。</p>

表 4.5-2 「海岸漂着物の発生抑制対策ワーキンググループ 取組紹介」
(日本エヌ・ユー・エス株式会社) の説明概要

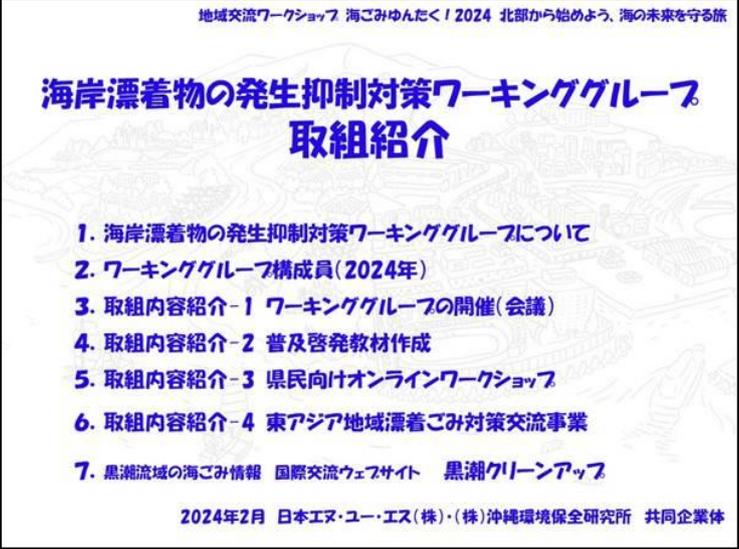
タイトル	海岸漂着物の発生抑制対策ワーキンググループ 取組紹介
表紙	
発表者	日本エヌ・ユー・エス株式会社
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・WG 立上げの経緯、背景の説明 ・WG 構成員、開催状況の説明 ・過年度のWGの実施内容から以下の取組内容を説明 <ul style="list-style-type: none"> ①How To ビーチクリーン (チラシ作成ツール) <p>海岸清掃方法や分別ルールを説明するためのチラシを作成できるツール。必要なパーツが揃っており、それらを組み合わせてチラシを作成する。</p> ②2020年作成のイラスト素材集 <p>環境教育・普及啓発に使用する教材、ポスター、チラシなどに簡単に張り込めるイラスト素材集であり、沖縄の風景・ごみと生物・人々の活動、ごみのデータ表作成に使えるアイコン、セリフを書く際の吹き出しなど全部で190種類のイラストを用意。</p> ③2021年度より実施している県民向けオンラインワークショップ <p>海洋ごみ対策に関して、自治体や民間団体など参加者間の交流、活動の工夫、課題の共有、情報交換などを目的とした一般県民向けオンラインワークショップを開催。</p> ④2014年度より実施している東アジア地域漂着ごみ対策交流事業 <p>海洋ごみの発生抑制対策には、普及啓発・環境教育、人材育成、近隣諸国との連携が必要であることから、県は2014～2022年度にかけて、台湾や中国の行政及び民間団体と連携し「東アジア地域漂着ごみ対策交流事業」を実施</p> ⑤黒潮流域の海ごみ情報 国際交流ウェブサイト 黒潮クリーンアップHP <p>「黒潮クリーンアップ」は、黒潮流域の海ごみ問題を伝えるためのウェブサイト。黒潮流域の海ごみを減らすために、沖縄の海ごみの状況、クリーンアップ活動、黒潮流域の国際交流活動、そして普段の生活の中からプラスチックごみを減らすアイデアなどを掲載している。</p>

表 4.5-3 「わくわくサンゴ石垣島」
 (わくわくサンゴ石垣島) の説明概要

タイトル	わくわくサンゴ石垣島
表紙	
発表者	サンゴ学習推進団体 わくわくサンゴ石垣島
内容	<p>【わくわくサンゴ石垣島】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わくわくサンゴ石垣島は、環境学習に興味を持つメンバーが集まり、石垣市内の小中学校や八重山離島の小中学校を対象にした、環境教育を行っている「サンゴ学習推進団体」である。 ・サンゴの健康チェック、ビーチクリーン、マイクロプラスチック調査、海岸漂着物の学習などを実施している。 ・八重山の全ての子供達にサンゴ学習を届けられるよう、行政や民間団体とも連携をとりながら活動している。また、地域のイベントへ出展や若手の人材育成にも取り組んでいる。 ・わくわくサンゴ石垣島の活動動画は、環境省による環境教育・ESD 実践動画百選に選定されている。 <p>【石垣島の海岸清掃活動の拡がり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海 Love ビーチクリーン、白保魚湧く海保全協議会の取組紹介。 ・石垣島の主な海岸清掃活動としては、個人、チーム、組合、協会の活動、マリ業者などショップでのホームグレンデ清掃活動、部落での活動（白保地区、大浜地区、野底地区）、サーファーのワンハンドビーチクリーン、色々なイベント開催（ペットボトル10000本拾う、ハロウィンに漂着ゴミで仮装 など）、観光業や修学旅行でのツアーとしての清掃活動がある。 ・石垣島で海岸清掃活動が広がった主な要因としては、SNS の普及、学校が教育プログラムとして扱うようになった、環境学習などが修学旅行などでも求められている、事業としての清掃活動が増えた、旅行会社が商品化、などがあげられる。

表 4.5-4 「西表島での海ごみ問題解決に向けた取組」
 (一般財団法人西表財団・特定非営利活動法人西表島エコツーリズム協会) の説明概要

タイトル	西表島での海ごみ問題解決に向けた取組
表紙	
発表者	(一財)西表財団 理事 兼 事務局・NPO 法人西表島エコツーリズム協会 理事
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・西表島で海ごみ対策に関わっている活動団体としては、西表島エコツーリズム協会（1996年設立）、西表エコプロジェクト（2002年発足）、西表財団（2021年設立）があり相互で連携しながら取組んでいる。 ・ビーチクリーン・調査結果より、2022年度における西表島の海岸漂着物の種類とペットボトル製造国の組成を紹介。またペットボトル製造国の組成の20年間の変化も紹介。 ・1バックビーチクリーンの紹介。西表島でカヌーやトレッキング、スノーケリングなど自然体験アクティビティに参加する観光客がツアーガイドと共に1袋(1バック)のビーチクリーンを行う取組み。1バックビーチクリーンの実施ガイドはビーチクリーンリーダーが担う。 ・船でしかアクセスできない手つかずの海岸の清掃活動、海底ごみ回収活動の紹介。 ・環境教育、使い捨てプラスチック削減の取組を紹介。 ・西表島で回収した海岸漂着物は、石垣島へ運搬し処理されるため運搬処理コストは高く、¥12,000/トン袋程度である。石垣島では埋立処理されている。 ・きれいな海を取り戻すためには、①ごみを拾い続ける、②ごみを友好的に処理する、③ごみを減らす出さないようにする、以上の3つのアプローチで取組んでいる。 ・「西表島の手つかずの海洋ゴミ回収プロジェクト 船浮湾ビーチクリーン&集落散策モニターツアー（2024年2月24日実施）」を紹介。

表 4.5-5 「地域に貢献 地域と繋がる旅 EASY EARTH CLEANUP PROJECT」
 (Litterati Japan・株式会社マナティ) の説明概要

タイトル	地域に貢献 地域と繋がる旅 EASY EARTH CLEANUP PROJECT
表紙	
発表者	Litterati Japan 代表・(株)マナティ ディレクター
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトマナティとは ”新しい地球の遊び方” をコンセプトに、遊び（ワンコインで準備なし、片付けなし、手軽にクリーンアップ）、地域交流（協力パートナーと出逢い、地域の文化・自然を知る）、環境保全（参加者が増えれば増えるほど、地球が綺麗に）を実践。 ・プロジェクトマナティの仕組みを紹介（参加料支払い→用具レンタルとルール説明→クリーンアップ→ごみとレンタル品の返却） ・沖縄県内だけでもカフェ、民泊、ダイビングショップ、観光協会など約 110 箇所の多様なパートナーが存在。 ・プロジェクトマナティが必要な理由としては、ボランティア清掃を行うための行政への申請の負担、清掃ルールの理解不足によるトラブル、環境問題の普及啓発が急務な状況などの課題解決につながるものがあげられる。 ・プロジェクトマナティはサステナブルツーリズムを身近にするプロジェクトでもあり、地域貢献（美化、経済、魅力発信）、企業イベントでの活用、教育旅行での活用、オンライン事前講話とビーチクリーン体験などに活用されている。 ・街マナティの取組紹介。毎月最終金曜日夕方に国際通り県庁前にてゴミ拾いグッズ貸出のイベントを開催している。小学生～大人まで毎回 50 名近くが参加しており、ごみを拾うだけでなく、ゴミの行方まで一緒に考えられる機会となっている。

4.5.4 ワークショップ えんたくんで海ごみゆんたく！

(1) 実施状況

「えんたくん」は直径が1メートル程の丸いダンボールの板で、人々が円座になってひざの上にえんたくんを乗せ、ワールドカフェ形式で対話をするためのツールである。

このワークショップでは、えんたくんを使用し1グループ4～5名によるグループセッションを実施した。

グループセッションは3テーマを用意し、各テーマ終了後にグループホスト以外の参加者の入れ替えを行った。用意したテーマと進行内容は以下のとおりである。

- ・セッション1〈過去〉活動で大切にしてきたこと、工夫など（20分間）
 - ・ ーグループ入れ替えー
- ・セッション2〈現在〉現在感じている課題（20分間）
 - ・ ーグループ入れ替えー
- ・セッション3〈未来〉これからの展開、やってみたいこと（20分間）
- ・各テーブルホストからの報告

ファシリテーターは、宮古島海の環境ネットワーク事務局長が務めた。
えんたくんで海ごみゆんたく！の実施状況を図4.5-3に示す。

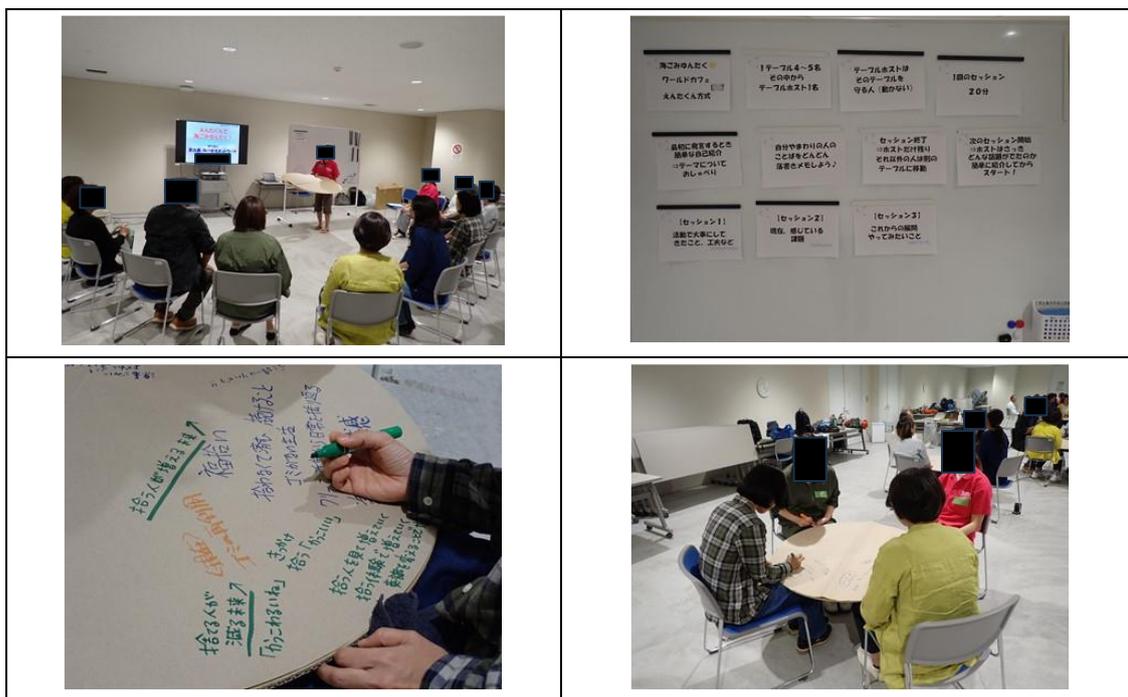


図 4.5-3 えんたくんで海ごみゆんたく！の実施状況

(2) えんたくんの書き込み状況

えんたくんで海ごみゆんたく！は3テーブルで実施したが、その書き込み状況は図4.5-4のとおりである。



(書き込みの一部)

- ・行政と民間のパートナーシップ
- ・何のために？→暮らし、みんなのしあわせ、好きというきもち
- ・ビーチクリーンで人の輪が広がる
- ・ビーチクリーンプラスアルファ（コーヒーの淹れ方）
- ・外部からの資金獲得（ふるさと納税、クラファン）
- ・竹富町の島々の横のネットワーク→プラごみ削減協議会に発展
- ・世代、職業、移住者、在住者を超えた繋がり、ビーチクリーンの輪を大切に
- ・ビーチクリーンに熱が入るあまり、周りの生き物に目が向かないから、目を向けるように工夫する
- ・SNSで現状を広げる!! ・無理なく楽しく!!
- ・先進的な取組みを県主導で!!
- ・いろいろな人と知り合える、人の輪が広がる
- ・いつも日本からのゴミを拾っている
- ・楽しく拾えるグループを増やす
- ・ごみを減らす未来→教育 ・続くことが大事!!
- ・ボランティア証明書
- ・ごみ箱設置や置く場所が大切
- ・楽しい！Happy！を目指す
- ・地域マネー、スタンプラリーは積み重ねが見える

図 4.5-4 えんたくんの書き込み状況

(3)各テーブルホストからの報告

えんたくん3テーブルの各テーブルホストからの報告の概要は表 4.5-6 に示すとおりである。

表 4.5-6 各テーブルホストからの報告概要

<p>テーブル 1</p>	<p><大事にしてきたこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の気持ちを大事にして活動している。気持ちよくごみ拾いをするために押し付けない。 ・現在の課題はゴミ箱を海岸に置きたい。ただ置くだけでは管理者や不法投棄の問題が起こるので、行政と民間が協力体制を組み皆にとって良い仕組みを作れるとよい。 <p><現在の課題とこれからの展望></p> <ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行や探求学習でのビーチクリーンを透明化して島でも広げるとよい。 ・宮古島理想通貨（MYAHK）の取組の紹介があった。環境に良い取組をした人が使える通貨で買い物できる店舗がもっと増えてくると自分の価値観に合ったお店が選択できる。
<p>テーブル 2</p>	<p><大事にしてきたこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴミを拾うことは福ひろい。 ・ゴミ拾いを継続するためにゴミを楽しみながら回収できると良い。 ・少しでもリサイクルできるようになると良い。 <p><現在の課題とこれからの展望></p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光客が拾ったゴミを船で持っていくことができないか。 ・ぼい捨てはかっこ悪いこと、ゴミを拾うことはかっこいいこと、と子供達に広めていく。 ・ゴミを捨てることが環境悪化につながることを可視化して子供達にわかるように伝える。 ・ゴミを捨てて罰することよりも優しさで補う。 ・ゴミ分別指導員がいると家庭ごみも取り残しがなくなるのでは。 ・陸ごみをが海ごみにつながることを意識し、自分事と捉えて陸ごみも拾っていく。
<p>テーブル 3</p>	<p><大事にしてきたこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今の海を楽しむこと。 ・いろんな人とのつながりを楽しむ。 <p><現在の課題とこれからの展望></p> <ul style="list-style-type: none"> ・皆が幸せになるために、自然を守るために、何のために活動するのか、との意識が重要。しかし、活動のためには余裕が必要。余裕のためには生活も大事。その中でごみも排出されていく。この循環の中にある。 ・先進的な取組を県がリードして実施しないと、ごみを回収しなくていいという最終ゴールにはたどり着けないのでは。西表島ではネットを設置する実証実験を実施。

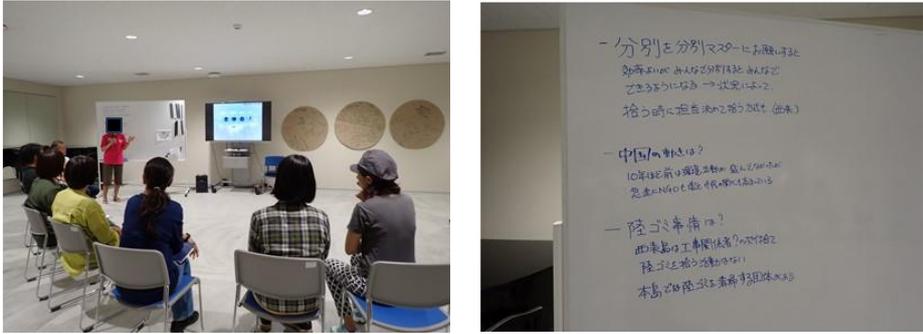
4.5.5 全体会（全体討議）

ワークショップの最後に全体会（全体討議）を行った。全体討議では、疑問・質問共有したい情報、このワークショップの感想など自由な発言を参加者に求めた。

ファシリテーターは、宮古島海環境ネットワーク事務局長が務めた。

全体会の実施状況と発言内容は表 4.5-7 に示すとおりである。

表 4.5-7 全体会（全体討議）の実施状況

<p>実施状況</p>	
<p>発言内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・分別を慣れている人をお願いすると効率良いが、みんなで分別するとみんなのできるようになる →状況によっては、担当を決めて拾う方式もあり ・中国の動きは？ →10年ほど前は環境活動が盛んではなかったが、近年は急速に NGO の活動も増え、市民の関心も高まっている ・陸ゴミ事情は？ →西表島は工事関係者？のポイ捨てが課題 →陸ゴミを拾う活動団体はない →沖縄本島では陸ゴミを清掃する団体がある <p style="text-align: right;">など</p>

4.5.6 参加者アンケート

参加者アンケートの結果を図 4.5-5～図 4.5-11 に整理した。

図 4.5-5 (Q 1) のワークショップへの評価では、「とても良かった」、「良かった」との回答となり、「あまり良くなかった」、「良くなかった」の回答は無かったことから、参加者にとって有意義であったと考えられる。

図 4.5-6 (Q 2) のワークショップの感想(選択式)では、「沖縄県内の他団体の活動内容を知ることができた」、「同じ地域の方々と交流の場を持てた」、「活動の問題解決のヒントやアドバイスを得られた」に「とてもそう思う」と回答した参加者が多く、図 4.4-6 (Q 3) (記述式)にも「地域によって分別などの方法が異なることが分かった」といった回答があり、他地域・他団体との交流・情報交換が良かったとする意見が多かった。

図 4.4-7 (Q 4) もっと深く/広く知りたいことでは、「海ごみ回収のための工夫やアイデア」との回答が最も多かった。

以上の結果から、参加者の感想として、他団体・他地域の活動している人とのつながりの場、情報交換の場について、良かった、有意義であったとの感想が多かった。

図 4.4-9 (Q 5) の沖縄県の海ごみ対策への意見や要望(記述式)では、陸でのごみ回収や、環境教育の実施など発生抑制に関する意見・要望のほかに、地域連絡協議会の開催など行政との定期的な意見交換を求める意見が見られた。

図 4.4-10 (Q 6) 開催方法等に関する感想では、「えんたくんを用いた手法が面白かった」という意見のほかに、学生や行政関係者など幅広い参加を求める回答が見られた。

図 4.4-11 (Q 7) の今後のセミナーやワークショップへの要望、やってみたいこと(記述式)では、子供達向けのワークショップの開催や若い世代への周知・呼びかけといった参加対象の拡大、西表島でのビーチクリーンに参加したい、など他地域との交流への要望が多く得られた。

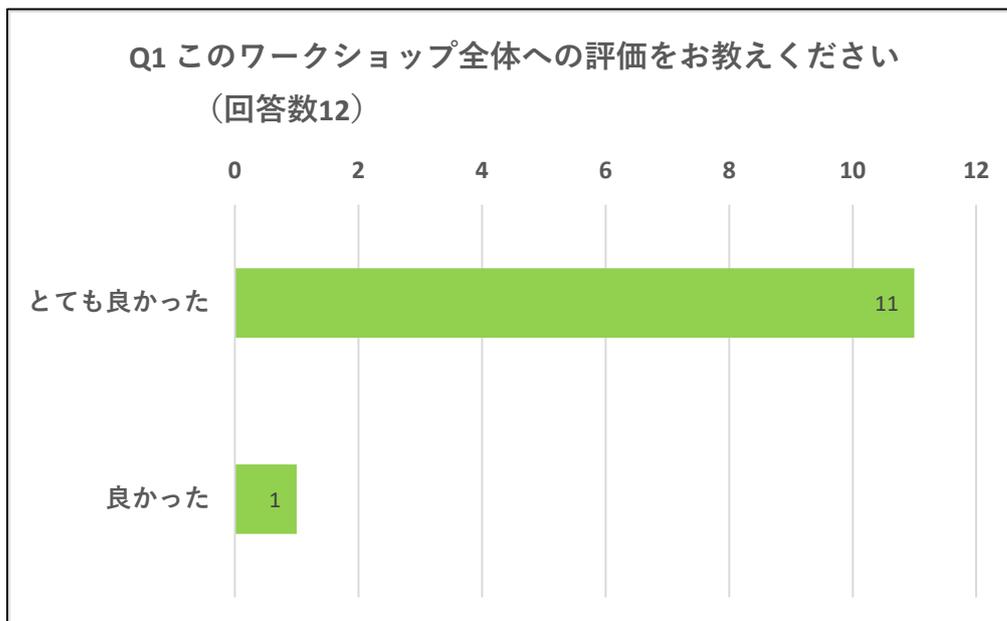
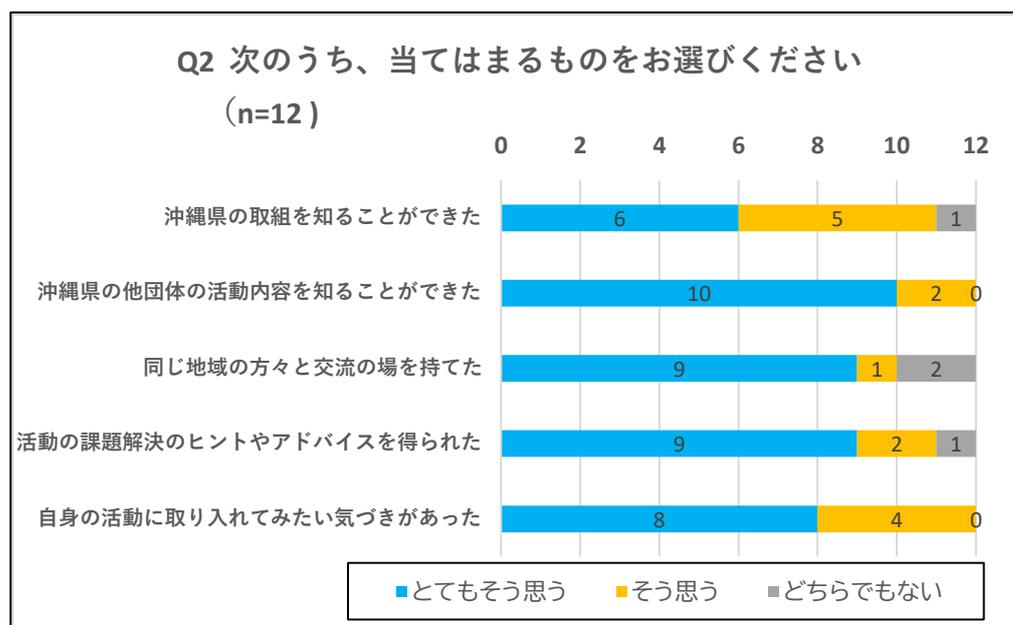


図 4.5-5 ワークショップへの評価（選択式） 回答結果



(理由)

- ・1人で活動するよりも、人が集まるとモチベーションが上がる。
- ・他の地域の活動の具体的な方法、悩みが聞けた。
- ・時間があつという間にすぎ、今後の活動の参考、アドバイスを得られた。
- ・八重山・宮古の方々と交流する機会がなく、本気で取り組み続けている皆さんと有意義な情報交換できたから。
- ・会ってお話する事で知る事がたくさんある
- ・これまで知らなかった地域の現状、課題、取組を知ることができた。
- ・沖縄県内でも地域により違いがたくさんある
- ・石垣分別スタイルやってみようと思った
- ・分別方法など地域で方法が違うことがわかり、自分たちにも取り入れられることがあると思った。

図 4.5-6 ワークショップの感想（選択式） 回答結果

Q3 特によかったと思う内容と理由をお書きください（任意）

- ・子供たちに面白いアプローチをしている内容を聞いて、わくわくが広がった。
- ・回収の方法が自分たちと違うやり方が解かった。
- ・他の団体の活動内容を知る事ができ参考になった。
- ・えんたくんでざっくばらんにお話できたのがよかった。
- ・困り事の共有ができた事で、今後のあり方や対策がでるのでは。
- ・宮古島が先進的だなと思う箇所もあれば、え？と思う所もあった。
- ・各地のよい所をそれぞれ学び取り入れていければ、交流の意味もはず。
- ・宮古島の中で活動していてもあまり知らなかった人たちと話す機会があった。

図 4.5-7 ワークショップの良かった内容とその理由（記述式） 回答結果

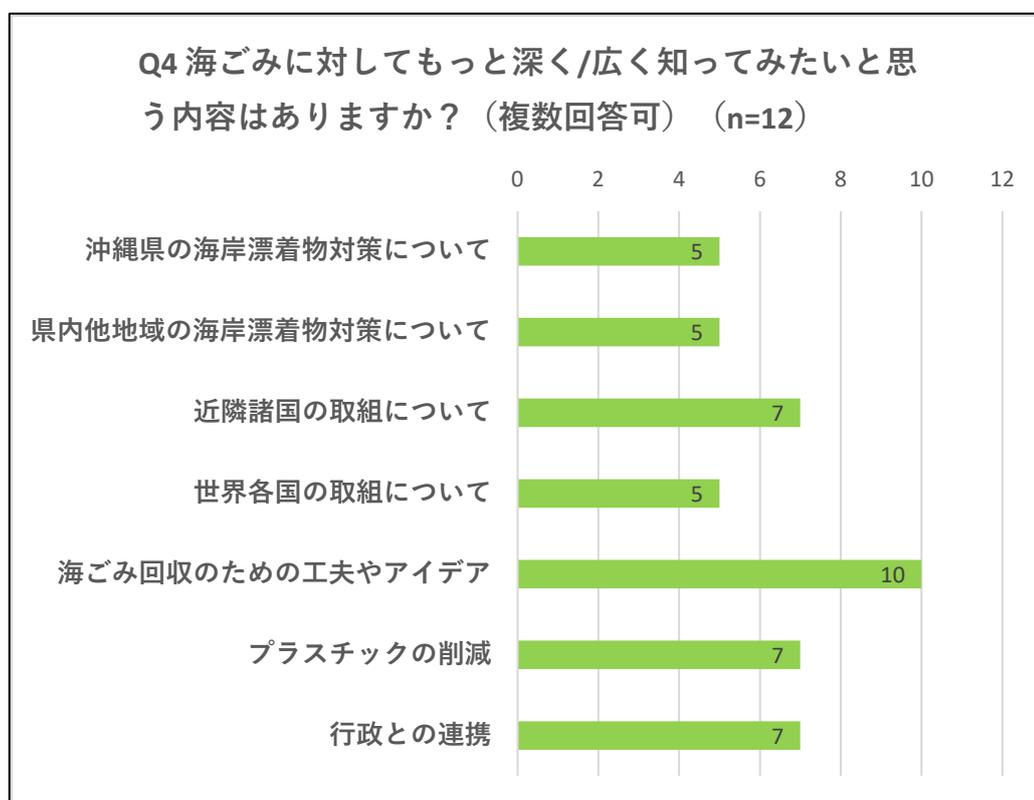


図 4.5-8 海ごみに関して知りたい内容（選択と記述式） 回答結果

<p>Q5 沖縄県の海ごみ対策に対して、意見や要望があればご記入ください（任意）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 陸ごみ対策にも力を入れてもらえたら嬉しい。 ・ 漂着する前にごみを回収する方法を考えてほしい。 ・ ごみを減らすアクションを県民、観光客に周知してほしい。 ・ ごみの回収予算をふるさと納税やクラウドファンディングなどで捻出できないか？ ・ 街ごみの対策や環境教育に力を入れると良い。 ・ 行政との具体的な連携のやり方が知りたい。 ・ 地域連絡協議会の復活 ・ 行政と民間がもう少しよりよいパートナーシップを組めたら ・ 1年に1回でも行政と話し合う機会がほしい ・ 行政の参加がもう少しほしい。 ・ あまり関心のない人をまきこんだ内容をしてもいいのではないか。

図 4.5-9 沖縄県の海ごみ対策への意見や要望（記述式） 回答結果

<p>Q6 事務局への意見や要望があればご記入ください（任意）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 楽しくあっという間でした。 ・ アットホームな雰囲気ですリラックスして参加できた。とても話しやすかった。 ・ 内容、進行等とても良く分かりやすかった。 ・ えんたくんは気軽に思った事を output しやすく良い。 ・ 中高生も参加できると良い。 ・ ボリュームが割とある。半日（3時間）程度にまとめると参加のハードルが下がる。 ・ 宮古島のイベントと日程がかなり重なっていたので、重ならない日程にしてほしい。 ・ 時間配分、スケジュールはよかったと思う。

図 4.5-10 開催方法等に関する意見や要望（記述式） 回答結果

<p>Q7 海ごみに関するセミナーやイベントについてのご要望（任意）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子供向けのWSの見学（参加）してみたい。 ・ 西表でのビーチクリーンに参加したい。 ・ 他の地域との交流。 ・ 若い世代への周知、呼びかけ。 ・ 離島ビーチクリーン体験。 ・ ビーチクリーン時、ワーキンググループの方にゲストに来てほしい。

図 4.5-11 ワークショップへの意見や要望（記述式） 回答結果

4.6 今後の方針・取組案

地域交流ワークショップは、本資料冒頭の目的で記載したとおり、過年度のWGや一般県民向けオンラインワークショップにおいて、活動団体が少ない地域や県内の発生抑制対策に係る情報共有が充分でない地域では、人材の掘り起こし、各活動主体の連携や協力体制の確立、情報共有や協議の場等の継続的な取組が必要であり、そのための一助としてWG構成員を通じた情報共有や今後の活動のための意見交換の機会が有効であるとの指摘により開催したものである。

沖縄県では、2021年度より一般県民向けオンラインワークショップを本年度も含め継続的に開催し、県内幅広い地域の関係者を対象に、海洋ごみの発生抑制対策についての普及啓発を進めているが、人材の掘り起こし、各活動主体の連携や協力体制の確立、情報共有や協議の場の確保という課題に対しては、地域単位の丁寧な取組の推進が不可欠であり、地域交流ワークショップ実施の必要性は高いと考えられる。

今回の参加者アンケート結果からも、ワークショップの開催や開催内容については良好な回答が得られている。今後も県内広域の関係者を対象とした一般県民向けワークショップと地域交流ワークショップを組み合わせ継続的に実施することは、県内の海洋ごみ発生抑制に係る普及啓発を進める上では有効であると考えられる。

地域交流ワークショップの開催方法・内容については、参加者アンケートより、行政や教育関係者の参加や、開催日・時間の見直しなどの要望が出ており、また、沖縄県の海ごみ対策に対する意見や要望も多く寄せられていることから、地域交流ワークショップを今後も継続的に開催していく場合には、これらを踏まえた開催内容の検討が必要である。